

令和 4 年度

年間学習計画表

6 年生



東京都立白鷗高等学校

6 年____組____番 氏名_____

開 拓 精 神

本校の教育を支える理念は「開拓精神」です。みずからの意志と努力をもって自己を開発していく精神、いかなる苦難にも耐えて自己の人生を切り開いていく力、社会の進展に寄与する旺盛な意欲をもつ生徒を育成することを目指しています。

I 学習計画表の活用の仕方

各教科の学習計画表には、教科ごとの目標や学習の特徴、授業の流れが提示されています。

ここには、その読み方と活用の仕方を示しました。

これを参考にして、今年1年間、どのように学習を進めていくか、自分自身の目標を立てて、計画的に取り組んでいきましょう。

その教科の3年間の学習の流れが載っています。

教科の学習目標

3年間で身につけてもらいたい、各教科の学習の目標が書かれています。

自分自身の3年後のイメージを持ち、日々の学習に取り組んでいきましょう。

3年間の科目構成と学習内容

各教科の6年間を通した科目の構成とその学習内容が書かれています。

学校では、これに基づいて、教科担当の教員間の連携を図り、組織的・体系的に指導することで、みなさんに確かな学力が身につくよう、学習活動を展開していきます。

「科目」と学習内容

各学年で学ぶ教科・科目と、その内容について書かれています。

学年が上がるに従って、どのように進んでいくのかがわかります。

3年間を見通した教科の指導計画（平成23年度入学生）

国語科					
I 国語科の学習目標					
(1) 言語能力を高めることによって、思考力を伸ばすとともに心情を豊かにする。 (2) 文章表現の読解を通して、様々な思想・人物像に触れ、自己の考えを確立し、自己の生き方について考える態度を育成する。 (3) 優れた国語表現をふと目に、自己の目で確かに対象を捉え、それを国語で適切に表現し伝達できるようにする。 (4) 表現活動を通して言語能力を身につけるとともに、日本文化の特質を理解し、現代社会を担う者としての良識を養う。 (5) 古典に描かれた世界を鑑賞することによって、ものの見方、感じ方、考え方を広げる。					
国語科の3年間の科目構成と学習内容					
国語総合（必修） 現代文 2単位時間	古文 2単位時間	漢文 1単位時間	計3単位時間		
1 言語能力を高め、文章読解力の向上を目指す。教科書の文章を中心に学習する。 2 評論、小説、詩歌、思想など様々な分野の作品を学習する。 3 言語事項として、識字能力の向上を目指す。補助教材を用いて学習する。	1 古文に親しみ、読解する能力を身につける。 2 説話、日記・紀行、物語、軍記、随筆、和歌など様々な分野の代表的な作品を学習する。 3 文法事項として、歴史の記述文・品詞の活用・用言の活用・助動詞・助詞の一部・敬語法の理解までを学習する。 4 古文の語法に親しむために、百人一首の完全な暗唱を目標とする。	1 漢文に親しみ、読解する能力を身につける。 2 故事成語、唐詩、史話、儒家思想、説話などの作品を学習する。 3 訓読の基礎から始め、訓読のきまり全般を、補助教材を用いて学習する。さらに、重要な句法を学習する。			
現代文（必修） 2単位時間	古文（必修） 2単位時間	漢文 1単位時間	計3単位時間		
1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2 評論、小説、詩歌、思想など様々な分野の文学作品を学習する。長期休業期間を利用して、長編作品の読解・鑑賞の学習を行う。 3 言語事項として、大学入試にも対応する現代語の重要知識の習得を補助教材を用いて学習する。 4 近現代文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用し習得する。	1 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。 2 説話、随筆、歴史物語、日記、物語、俳句・俳論など様々な分野の作品を学習する。 3 古典文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用して、習得する。 4 文法事項として、用言の活用・助動詞の用法・助詞の用法・敬語法について習熟する。	1 漢文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。 2 史話（史記）唐詩（長恨歌）、古詩、小説、思想などの作品を学習する。 3 1学年次に引き続き、漢文訓読に必須の事項を補助教材を用いて学習する。			
現代文（必修） 2単位時間	古典講読（注） 3単位時間 古文 2単位時間 漢文 1単位時間	国語総合・現代文（自由選択） 文・文理解 2単位時間	古典（自由選択） 文・文理解 2単位時間	国語総合・表現編（自由選択） 文・文理解 2単位時間	
1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を学習する。 2 問題解決能力の向上を目指してセンター試験過去問題や演習を行う。	1 古文・漢文とも、文法・句法に留意して読解能力の向上を目指す。 2 古文・漢文とも、問題解決能力の向上を目指して、センター試験過去問題の演習を行う。 3 古文単語・漢文語彙を正確に理解するため、補助教材を用いて学習する。 (注) 文系一必修 文理解一必修選択	国公立二次・私立大入試に対応する「現代文」の問題演習を行う。	国公立二次・私立大入試に対応する「古文・漢文」の問題演習を行う。	小論文入試対策を行う。表現の基礎力が身に付いている者が、さらに表現能力の向上を目指して、過去の入試問題等を利用して、記述練習を行う。	
		古典（自由選択） 文・文理解 1単位時間	国語総合・表現編（自由選択） 文・文理解 1単位時間		
		問題解決能力の向上を目指して、古文・漢文のセンター試験過去問題等の演習を行う。	上に同じ		

その教科の各科目の1年間の授業計画が示してあります。

学習の到達目標

その学年のうちに、どのような力を身につけてほしいか、教科の到達目標が書かれています。

年間を通して、どのようなことが目標なのか、そのためにどうはしたらよいかを考えて、授業に取り組み、学習を進めていきましょう。

考 査

定期考査(テスト)の時期と出題の範囲が書かれています。

家庭学習を含めて、計画的にテストへ向けての準備をしましょう。

学習内容・授業時間数

年間の中で、いつ、どのような学習を、どのくらいするのか書かれています。

1年間の見通しを持って、学習計画を立てていきましょう。

長期休みの宿題

夏期、冬期、春期の各長期休業中に出される宿題・課題と、その後の確認テストの有無がわかります。

普段なかなか取り組めないような、長い休みを活かした課題や、教科の実力を磨くための、総まとめをする宿題などが出されます。

また、休み明けには、その成果を確認するためのテストが行われることもあります。

評 価

成績評価について、書かれています。

どんな力や態度をみるのか、またそのための評価方法や使用する資料の主なものは何か、などが書かれています。

教科名 国語科	
科目名 国語総合・現代文	
対 象 4学年全員	
Ⅰ 学習到達目標	
1 評論を読み、その論旨の展開をたどりつつ、要旨・筆者の主張を的確に読み取ることができるようになること。	
2 小説を読み、作品の構成・登場人物の人物像・主題などを的確に読み取ることができるようになること。	
3 読者に親しみ、国語表現の豊かさを味わいつつ、その作品世界の趣きを感じ取ることができるようになること。	
4 随想を読み、その作品に示された筆者の感性・人柄・人生観などを読み取ることができるようになること。	
5 常用漢字表を中心として漢字能力を高め、言葉の世界を豊かにする力を培うことができるようになること。	
Ⅱ 授業の進め方(授業形態等)	
1 国語総合単位のうち、2単位時間で学習する。評定は、現代文・古文・漢文の3領域を総合したものとなる。	
2 課題学習を中心とする。予習確認のための小テストを毎月毎に実施する。また、定期的にノートの提出を求める。	
3 補助教材については、小テストの実施、定期考査の範囲に含めることによって学習する。	
Ⅲ 教科書・補助教材	
教科書 「精選 国語総合」東京書籍 「新版初訂カラー版新国語標準」第一学習社	
補助教材 「音と形で覚える漢字の漢習」明治書院 「新版初訂カラー版新国語標準」第一学習社	
Ⅳ 学習計画	
期 月	学 習 内 容
春休み	「教科書」による学習内容
宿題	評論「愛するということ言葉」 P 10～17 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 1～19 音と形による分類 1回～8回
4	2学期 評論「水の東西」 P 18～24 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 20～35 音と形による分類 1回～8回
5	3学期 小説「羅生門」 P 26～39 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 36～51 音と形による分類 1回～8回
6	1学期 詩歌「筑波うへ」 P 98～99 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 52～79 音と形による分類 1回～8回
7	2学期 評論「理解と誤解」 P 100～102 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 80～95 音と形による分類 1回～8回
8	3学期 小説「なめとこ山の熊」 P 46～52 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 96～113 音と形による分類 1回～8回
9	1学期 詩歌「なぜのひきかた」 P 64～79 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 114～131 音と形による分類 1回～8回
10	2学期 小説「仲義の手記から」 P 140～164 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 132～149 音と形による分類 1回～8回
11	3学期 詩歌「十五の心」 P 168～172 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 150～167 音と形による分類 1回～8回
12	1学期 小説「花野」 P 80～95 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 168～185 音と形による分類 1回～8回
1	2学期 評論「聴くということ」 P 53～62 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 186～203 音と形による分類 1回～8回
2	3学期 評論「「情報伝達」という神話」 P 122～127 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 204～221 音と形による分類 1回～8回
3	1学期 評論「もの」と記号」 P 128～138 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 222～239 音と形による分類 1回～8回
4	2学期 詩歌「花野」 P 113～117 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 240～257 音と形による分類 1回～8回
5	3学期 表現「君たちに伝えたいこと」 P 182～187 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 258～275 音と形による分類 1回～8回
6	1学期 評論「文明の「デザロギー」」 P 166～174 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 276～293 音と形による分類 1回～8回
7	2学期 評論「断片化する世界」 P 175～180 「音と形で覚える漢字の漢習」 P 294～311 音と形による分類 1回～8回
8	3学期 補助プリント 総合問題
9	計 70
評 価	
各学期定期考査は平常期(宿題の提出及び宿題テスト・ノート提出・小テスト)を加味した総合評価の対象とする。なお平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。現代文として各学期1回定期評価を行い、学年末には古文・漢文と総合して、国語総合としての学期別評定を行う。	

Ⅱ 白鷗高校の学習について

（１）四年制大学進学に対応する授業の内容である。

白鷗高校に入学してくる生徒はほぼ 100% 四年制大学への進学を希望しています。特に国公立大学への進学を希望している割合が多く、毎年多くの生徒が大学入試センター試験を受験しています。

私立大学も大学入試センターの試験を利用する大学が増加しています。生徒によっては多科目の受験の準備が必要となります。

教科・科目は大学センター試験に対応して教育課程の中に位置づけられ設定されています。各科目の授業内容は、センター入試の問題を確実に解答し、さらに二次試験や私立の難関大学の入試問題を解答できる学力を育成することを想定しています。

また、大学進学後の専門的な勉強や研究を行っていく上で、十分な力を身につけることができるように考えられています。

（２）各クラスによって学習内容が異なることのない計画的な学習である。

白鷗高校の授業は各クラスによって学習内容や進度が異なることがないように行われます。そのようなことが可能なのは、各教科・科目の授業の進展がこの年間学習計画に沿って行われているからです。各科目の学習内容はあらかじめ分かっているので、当然皆さんは 1 ヶ月先の予習や 2 ヶ月先の予習を行うことも可能です。長期休業中に次の学期の予習を全て終わらせてしまい、学期の授業が始まってからは、自分が必要と考えている専門的な高度な勉強を行うこともできます。

（３）白鷗高校の授業は家庭学習での予習を前提に成り立っている。

白鷗高校で受け継がれてきた「辞書は友達、予習は命」という言葉は家庭での学習がいかに大事であるかを端的に言い表しています。翌日の予習を全教科きちんと行くと大体 2 時間～3 時間はかかると思います。こうした予習時間を毎日確保することが、進学準備へとつながっていくのです。

予習をきちんと行くと授業で先生に教わった内容に、疑問点、質問が必ず起こってきます。学習は深化すれば深化するほど疑問点は増えるからです。そうした疑問点、質問をそのままにせず、先生に聞いて下さい。白鷗高校の先生は必ずそういった質問に対してきちんと応えてくれます。

（４）ノートの提出、小テストの実施を頻繁に実施する。

白鷗高校の授業の大きな特徴は、頻繁にノートの提出、レポートの提出が行われる、あるいは小テストが多く授業でたびたび実施されるということです。これは授業に対しての皆さんの学習の状況を正確に把握しようとするためや、学習成果の定着を確認しようとする意図があります。これらの先生方の要求する提出物や小テストの実施を受け身で考えるのではなく、自分の学力を点検し、伸ばしていくチャンスとして頑張りたいと考えています。

Ⅲ 進路指導計画について

1 進路実現に向けて－高校3年生（6年生）－

（１）現役受験生である皆さんは学校の授業を大切に

当たり前のことですが、今学校で行っている授業をおろそかにして学力の伸長はあり得ません。4・5年生でやってきたように、授業の予習・復習のサイクルをきちんと行い、自分ではわからなかった点をよく整理して授業に臨むほうが、はるかに高い学習効果があります。問題演習だけが受験準備ではないのです。学力は総合的なものであって、個々の断片的な知識の集積ではありません。また、大学生になってからの学問には、文系・理系に関わらず幅広い知識が要求されます。毎日毎時間の授業を大切に、未来へ向けての準備をしましょう。

（２）計画的な学習を行う

おそらく皆さんは4・5年生の段階から、すでに何らかの形で受験勉強をスタートしていることと思います。例えば、国語の学習として古文の文法事項の整理、英語の学習として単語、熟語の暗記など、自分でいくつかの学習項目を立てて勉強を始めていることでしょう。学習が進めば進むほど勉強しなければならない範囲の広さに気がつくと思います。

高校3年生になるにあたり、自分の受験勉強のゴール地点（過去問）を1回分解いてみるのも有効です。ゴール地点の到達目標が見えると、これから学習する科目の内容をきちんと計画を立てて進めることができます。

あなたのゴールは、第1志望校の過去問題が解けるようになることです。そこに到達するまでの道は一つではありません。一つの科目をじっくりと時間をかける人もいれば、短い時間に集中的に勉強することが得意な人もいます。自分の性格や学習スタイルに合った勉強方法をとってください。計画を立てて勉強するときのコツは、計画がうまくいかなくても自分はダメだと思わないことです。計画は変更すればいいのですから、あまり厳密に方法を決めないほうが計画は予定通り進むのではないのでしょうか。停滞しない限り、あなたの進歩は続いているのです。

具体的な、地歴公民科目と理科科目の大学入学共通テスト対策としては、夏休みまでに、終了した範囲の分野別問題を繰り返し解いておくことです。教科書が終わってからまとめて問題演習を行うのではなく、終わった分野から問題演習をこまめに行いましょう。これが現役生の戦略です。シラバスを参考に、夏休みまでの学習計画を立て、実行してみましょう。

（３）自分の受験しようとしている大学について具体的に確認をしておく

これからの一年間、学習とともに大切なのは、志望校の最終決定および受験にあたっての諸手続きの確認の二点です。

年間の進路指導スケジュールを保護者とともによく確認し、大体の受験計画が決まり次第、昨年度のデータに基づいて自分の受験しようとしている全大学の・出願期間（WEB出願は早めに）・試験日・受験科目・合格後の手続き（入学金・授業料等の支払期間・費用は「進路指導資料」最終ページ参照）について、書き出して見ましょう。

（４）第一志望をあきらめない

現役受験生は、努力すれば本番直前（3月の後期試験）まで、とことん実力を伸ばすことができます。第一志望は絶対にあきらめずに取り組みましょう。（秋の模擬試験のD判定は現役生徒は気にしない）

国公立大学が第一志望なら、是非とも後期試験も視野に入れてください。後期試験は、見かけの倍率（出願時の倍率）と実質倍率に大きな隔たりがあります。理由、前期試験で合格している人は出願したけれど受験しないためです。前期試験とは、大学入学共通テストと個別試験の配点比率の違いや面接重視など、受験方式の違いはありますが、必ず受験計画に織り込みましょう。

（５）学校の補習や講習を有効に活用する

高校3年生の夏休みの時期には、受験を想定した講習が毎年5月初旬に発表されます。学校で行われる講習は是非有効に活用してください。また、本校の先生方は皆さんが希望すれば、さらに別の補習を行って下さる方が大勢います。自分から積極的に先生方に相談しましょう。

大学入学共通テストが大きな関門であるためにそれにだけに目がいつている人も多いと思います。しかし、大学入学共通テストはあくまでも試験の一つでしかありません。国公立はそれぞれが独自の個別試験を行います。私立大学では、国公立大学にはない、個性的な内容の試験を課している大学もあります。これらの対応としては、進路室にたくさんある大学別・学部別の過去問が有効です。第1志望の過去問題は少なくとも過去6年分以上解きましょう。模擬試験ではわからない、1月の大学入学共通テストの先にある、大学独自の2月から始まる私立大学、2月下旬から始まる国公立大学の個別試験があることを想定し、受験準備を進めてください。

(6) 健康に注意して生活のリズムを保つ

受験勉強とは夜寝ずに勉強することだと勘違いしている人がいます。それが間違いだということを皆さんはよく分かっていると思います。睡眠は体や脳を休めると同時に、記憶したことを温存する役割があることが最近の研究で明らかになっています。昼間に眠気が襲ってくるならば、睡眠不足です。睡眠不足は生産性を低下させる要因になるので、昼間に眠気が襲ってくる人は、就寝前にだらだらスマホを見ると、睡眠の質が落ちてしまいます。眠気を我慢しながら勉強するのであれば、さっさと寝た方がよっぽど良いのです。睡眠中は直前の学習内容が頭に残るので、暗記ものは睡眠前と起床直後に同じものを覚えると暗記効果が上がります。

受験は一発勝負です。毎日コツコツ努力した上で、試験当日に努力の結果を出した人が評価されるのです。そのためにも、毎日きちんと登校し、生活のリズムを保つことが何より大切です。目標を達成した先輩たちの例を見ても明らかです。

受験シーズンの冬はカゼ・インフルエンザが流行するので外出後の手洗い・うがいの習慣必須です。

皆さんの、希望に満ちた未来へのあゆみを応援しています。

3年間を見通した進路指導の概要

	4年	5年	6年
重点目標	・学校生活への適応と基本的な生活習慣の確立 ・学習の習慣化（予習・復習サイクルの徹底） ・進路についての関心の喚起と自己適性の発見	・学校行事・諸活動への積極的参加と生活習慣の見直し ・学習の習慣化と学力の向上、模擬試験の活用 ・進路志望の明確化、受験生0学期スタート	・生活習慣の見直し（学校・授業中心の生活） ・自発的な学習と学力の蓄積 ・志望校対策 ・進路志望の実現
4月	・学力テスト ・オリエンテーションでの進路講演 ・外部教育機関進路講演	・宿題テスト ・保護者会（受験結果説明会）	・校内模試 ・保護者会（受験結果説明会・推薦入試について）
5月	・進路検討会（受験結果説明会） ・入学時意識調査	・進路検討会（受験結果説明会）	・進路検討会（受験結果説明会） ・大学入試過去問利用法の集会
6月	・保護者会（進路資料配布・説明） ・外部模試（希望者・駿台）	・保護者会（進路資料配布・説明） ・学年検討会 ・外部模試（希望者・駿台） ・模試の活用法集会	・保護者会（進路資料配布・説明） ・私立難関大対策集会 ・学年検討会 ・外部模試（希望者・東大・難関大レベル模試） ・外部模試（全員・ベネッセ：マーク模試）
7月	・夏期休業中の学習計画指導 ・外部模試（全員・ベネッセ） ・模試の活用法集会	・夏期休業中の学習計画指導 ・外部模試（全員・ベネッセ） ・大学教職員による大学説明会（約30大学参加） ・保護者会（進路資料配布・説明）	・夏期休業中の学習計画指導 ・外部模試（全員・ベネッセ：記述模試） ・夏期講習 ・入試要項発表
8月	・夏期講習 ・保護者面談 ・オープンキャンパスレポート	・勉強合宿（4泊5日） ・夏期講習 ・オープンキャンパスレポート	・夏期講習 ・保護者面談 ・外部模試（希望者）
9月	・宿題テスト ・5年時科目選択指導 ・5年時科目選択予備調査 ・保護者会（進路資料配布・模試の活用）	・宿題テスト ・6年時科目選択教科別説明 ・6年時科目選択予備調査票配布	・大学入学共通テスト受験説明会 ・外部模試（全員・ベネッセ駿台：マーク模試） ・外部模試（希望者・東大・難関大レベル模試） ・保護者会（進路資料配布・受験の心得） ・指定校及び一般推薦説明会
10月	・進路希望調査 ・外部模試（全員・ベネッセ） ・外部模試（希望者・駿台） ・中だるみ防止集会 ・学年検討会	・進路希望調査 ・6年科目選択予備調査 ・6年科目選択指導 ・外部模試（希望者・駿台）	・大学入学共通テスト願書提出 ・外部模試（全員・ベネッセ駿台：記述模試） ・インフルエンザ対策・食事法・学年集会 ・面接対策指導開始 ・入試に向けた模試の活用法集会
11月	・5年科目選択指導 ・外部模試（全員・ベネッセ：3教科） ・学年検討会	・6年科目選択本調査 ・外部模試（全員・ベネッセ：5教科）	・外部模試（全員・ベネッセ駿台：マーク模試） ・外部模試（希望者・駿台：東大入試実践模試） ・保護者面談（受験校決定）
12月	・冬期休業中の学習計画指導	・進路講演会（卒業生の社会人＋大学教授） ・受験生0学期集会	・保護者面談（受験校決定） ・卒業研究指導 ・大学入学共通テスト対策説明会
1月	・宿題テスト ・外部模試（全員・ベネッセ）	・受験生0学期スタート（第一志望宣言） ・宿題テスト ・外部模試（全員外部会場・河合塾マーク） ・外部模試（希望者・駿台：東大レベル模試） ・大学入学共通テスト同日模試（希望者）	・大学入試出願指導 ・大学入学共通テスト対策指導 ・大学入学共通テスト ・大学入学共通テスト自己採点 ・国公立大学受験のための面談
2月	・外部模試（希望者・河合塾記述） ・保護者会（外部教育機関の利用法）	・外部模試（希望者・河合塾記述）	・国公立個別試験対策指導・私大試験対策指導 ・卒業研究完成
3月	・春期休業中の学習計画指導 ・大学・学部・学科ガイダンス	・卒業生による進路懇談会 ・春期休業中の学習計画指導	・国公立個別試験対策後期指導・私大試験対策指導 ・個別相談

* 進路指導の予定は、変更することがあります。

国語科

I 国語科の学習目標

- （１）言語能力を高めることによって、思考力を伸ばすとともに心情を豊かにする。
- （２）文章表現の読解を通して、様々な思想・人物像に触れ、自己の考えを確立し、自己の生き方について考える態度を育成する。
- （３）優れた国語表現を学ぶとともに、自己の目で確かに対象を捉え、それを国語で適切に表現し伝達できるようにする。
- （４）古典を読む能力を身につけるとともに、日本文化の特質を理解し、現代社会を担う者としての良識を養う。
- （５）古典に描かれた世界を鑑賞することによって、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。

II 国語科の３年間の科目構成と学習内容

4 年	国語総合（必修）		計4単位	
	現代文 2時間	古典 2時間		
	1 言語能力を養い、文章読解力の向上を目指し、教科書の文章を中心に学習する。 2 評論、小説、詩歌、随想など様々な分野の作品を学習する。 3 言語事項として、識字能力の向上を目指し、補助教材を用いて学習する。	1 古文・漢文に親しみ、読解する能力を身につける。 2 古文領域では、説話、日記・紀行、物語、軍記、随筆、和歌など様々な分野の代表的な作品を学習する。 3 漢文領域では、故事成語、唐詩、史話、儒家思想、説話などの作品を学習する。 4 文法事項として、歴史的仮名遣い・品詞の分類・用言の活用・助動詞・助詞の一部・敬語法の理解までを学習する。 5 訓読の基礎から始め、訓読のきまり全般を、補助教材を用いて学習する。さらに、重要な句法を学習する。		
5 年	現代文（必修） 文系・理系Ⅱ 2単位	古典B（必修） 文系4単位 理系2単位		
	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を中心に学習する。 2 評論、小説、詩歌、随想など様々な分野の文学作品を学習する。長期休業期間を利用して、長編作品の読解・鑑賞の学習を行う。 3 言語事項として、大学入試にも対応する現代語の重要知識の習得を補助教材を用いて学習する。 4 近現代文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用し	1 古文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。 2 説話、随筆、歴史物語、日記、物語、俳文・俳論など様々な分野の作品を学習する。 3 古典文学史の知識を、補助教材を用い、小テストなどを活用して、習得する。 4 文法事項として、用言の活用・助動詞の用法・助詞の用法・敬語法について習熟する。	1 漢文に描かれている内容を的確に捉える能力を身につける。 2 史話（史記）唐詩（長恨歌）、古詩、小説、思想などの作品を学習する。 3 1学年次に引き続き、漢文訓読に必須の事項を補助教材を用いて学習する。	
6 年	現代文B（必修） 2単位	古典B（必修）	国語総合Ⅰ（自由選択）	国語総合Ⅱ（自由選択）
		文系3単位 理系2単位	文系・理系 2単位	文系 2単位
	1 言語能力を高め、文章読解力をさらに高めるために、教科書の文章を学習する。 2 問題解決能力の向上を目指して、センター試験過去問題の演習を行う。	1 古文・漢文とも、文法・句法に留意して読解能力の向上を目指す。 2 古文・漢文とも、問題解決能力の向上を目指して、センター試験過去問題の演習を行う。 3 古文単語・漢文語彙を正確に理解するため、補助教材を用いて学習する。	国公立二次入試に対応する「現代文」「古文」「漢文」の問題演習を行う。	私大入試に対応する「現代文」「古文」「漢文」の問題演習を行う。

科目名 現代文B
対 象 6 学年全員

I 学習到達目標

- 1 4・5年の学習を踏まえ、ものの見方・考え方を深め、また、表現力も高めること。
- 2 論理的な文章の構成、論の展開を正確に把握できるようになること。
- 3 抽象的な用語・比喻表現・対比と類似・例示とまとめ等を文脈に即して読み取れるようになること。
- 4 演習を通じて、センター試験を初めとする大学入試問題に対応できる読解力を身につけること。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 必修2単位。
- 2 教科書を中心に適宜補助教材を使用する。
- 3 予習を必ずして授業に臨むこと。

III 教科書・補助教材

【教科書】筑摩書房「現代文B改訂版」
【補助教材】尚文出版「総合版 共通テスト+センター試験国語過去問題」 「現代文キーワード読解」 「国語便覧」
「大学入試漢字TOP2000」

IV 学習計画

期	月	【教科書】学 習 内 容		【補助教材】	授業時数	備考
		考 査				
一 学 期	春休み 宿 題		授業に向けて補助教材の予習			
	4	中 間 考 査	菅啓次郎「ピジンという生き方」 p.242～248 【5時間】	平成30年度国語本試験 平成30年度国語追試験	15	
	5		尼ヶ崎彬「模倣となぞり」 p.259～267 【5時間】	キ 第1部「キーワード編」 第1・2章 第2部「頻出テーマ編」 テーマ1・2		
			大学入試問題演習【5時間】			
	5	期 末 考 査	真木悠介「骨とまぼろし」 p.344～351 【5時間】	平成31年度国語本試験 平成31年度国語追試験	15	
	6		木田元「技術の正体」 p.353～360 【5時間】	キ 第1部「キーワード編」 第3・4章 第2部「頻出テーマ編」 テーマ3・4		
	7		大学入試問題演習【5時間】			
	夏休み 宿 題		（ 夏 期 講 習 ）	令和2年度国語本試験 令和2年度国語追試験		
二 学 期	9	中 間 考 査	森鷗外「舞姫」 p.370～402 【10時間】	平成29年度プレテスト 平成30年度プレテスト	15	
	10		大学入試問題演習【5時間】	キ 第1部「キーワード編」 第5・6章 第3部「小説重要語編」		
	10	期 末 考 査	杉田敦「権力とは何か」 p.404～412 【5時間】	令和3年度国語第一日程 令和3年度国語第二日程	15	
	11		絲山秋子「ベルエポック」 p.430～439 【4時間】	キ 第1部「キーワード編」 第7章 第2部「頻出テーマ編」 テーマ5・6		
	12		吉野弘「祝婚歌」 p.330～332【1時間】 大学入試問題演習【5時間】			
	冬休み 宿 題					
三 学 期	1 2 3		大学入試問題演習【18時間】		18	
					計78	
評 価	各学期定期考查に平常点（ノート提出・小テスト等）を加味したものを評価の対象とする。 なお、平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。 各学期10段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。					

教科名 国語科
科目名 古典B（文系）
対 象 6 学年（必修）

I 学習到達目標

- 1 古典の学習を通して、日本文化の特質について考えを深めること。
- 2 4・5年の学習を踏まえ、古語・句法等基礎的知識を充実させて古文漢文の読解に習熟し、諸作品に描かれている内容を的確に捉える能力を身につけること。
- 3 演習を通じて、センター試験を初めとする入試問題に対応できる力を身につけること。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 文系必修3単位の内に古文・漢文を含む。
- 2 予習中心の授業を行う。（日常的に小テストやノート提出等を実施する。）
- 3 補助教材については、定期的なテストの実施、及び宿題の範囲（備考欄も参照）とすることによって学習する。

III 教科書・補助教材

【教科書】筑摩書房「古典B 古文編・漢文編」
【補助教材】尚文出版「総合版センター試験国語過去問題」、「これからの古典文法」「古文単語330」「新明説漢文」「国語便覧」

IV 学習計画

期	月	【教科書】学 習 内 容		【補助教材】 「総合版共通テスト+センター試験国語過去問題」	授業時数	備考
		考 査				
一 学 期	春休み 宿 題		授業に向けて補助教材の予習			
	4	中 間 考 査	古今著聞集「刑部卿敦兼の北の方」 p.134～135【7時間】 不死之薬 p80～81【7時間】 大学入試問題演習【10時間】	平成30年度国語本試験34 平成30年度国語追試験34 入試問題練習課題	24	
	5					
	5	期 末 考 査	捕蛇者説 p92～95【7時間】	平成31年度国語本試験34	24	
	6		建礼門院右京大夫集「なべて世の」 p.189～190【7時間】 大学入試問題演習【10時間】	平成31年度国語追試験34 入試問題練習課題		
	7 夏休み 宿 題		(夏 期 講 習)	令和2年度国語本試験34 令和2年度国語追試験34		
二 期	9	中 間 考 査	源氏物語「暁の雪」 p.164～169【7時間】	平成29年度国語プレテスト34	24	
	10		史記(二) 国士無双 p123～128 【7時間】 入試問題演習【10時間】	平成30年度国語プレテスト34 入試問題練習課題		
	10	期 末 考 査	大鏡「肝試し」 p.213～216【5時間】	令和3年度国語第一日程34	24	
	11		無名草子「紫式部」 p.202～203【2時間】	令和3年度国語第二に程34		
	12		人面桃花 p136～139【7時間】 大学入試問題演習【10時間】	入試問題練習課題		
	冬休み 宿 題					
三 学 期	1				21	
	2		大学入試問題演習 【21時間】	入試問題練習課題		
	3					
					計117	
評 価	各学期定期考査に平常点（ノート提出、小テスト等）を加味したものを評価の対象とする。 なお、平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別評価を含むものとする。 各学期10段階評価を行い、学年末には5段階の評定を行う。					

教科名 国語科
科目名 古典B（理系）
対 象 6 学年（必修）

I 学習到達目標

- 1 古典の学習を通して、日本文化の特質について考えを深めること。
- 2 4・5年の学習を踏まえ、古語・句法等基礎的知識を充実させて古文漢文の読解に習熟し、諸作品に描かれている内容を的確に捉える能力を身につけること。
- 3 演習を通じて、センター試験を初めとする入試問題に対応できる力を身につけること。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 理系必修2単位以内に古文・漢文を含む。
- 2 予習中心の授業を行う。（日常的に小テストやノート提出等を実施する。）
- 3 補助教材については、定期的なテストの実施、及び宿題の範囲（備考欄も参照）とすることによって学習する。

III 教科書・補助教材

【教科書】筑摩書房「古典B 古文編・漢文編」
【補助教材】尚文出版「総合版共通テスト+センター試験国語過去問題」、「これからの古典文法」「古文単語330」「新明説漢文」「国語便覧」

IV 学習計画

期	月	【教科書】学 習 内 容		【補助教材】	授業時数	備考
		考 査		「総合版センター試験国語過去問題」		
一 学 期	春休み 宿 題		授業に向けて補助教材の予習			
	4	中 間 考 査	古今著聞集「刑部卿敦兼の北の方」 p.134～135【5時間】	平成26年度国語本試験 3 4 平成26年度国語追試験 3 4	15	
	5		李広成蹊 p82～84【5時間】 大学入試問題演習【5時間】			
	5	期 末 考 査	今昔物語集「馬盗人」 p136～141【5時間】	平成27年度国語本試験 3 4	15	
	6		捕蛇者説 p92～95【5時間】	平成27年度国語追試験 3 4		
	7		大学入試問題演習【5時間】			
	夏休み 宿 題		（ 夏 期 講 習 ）	平成28年度国語本試験 3 4 平成28年度国語追試験 3 4		
二 学 期	9	中 間 考 査	源氏物語「車争い」 p152～155【5時間】 〃 埴上之老父 p119～122【5時間】	平成29年度国語本試験 3 4 平成29年度国語追試験 3 4	15	
	1 0		大学入試問題演習【5時間】			
	1 0	期 末 考 査	大鏡「菅公配流」 p208～212【5時間】	平成30年度国語本試験 3 4	15	
	1 1		老子「無之用」 p152【3時間】	平成30年度国語追試験 3 4		
	1 2		壮子「胡蝶之夢」 p156～157【2時間】 大学入試問題演習【5時間】			
	冬休み 宿 題					
三 学 期	1		大学入試問題演習【18時間】		18	
	2					
	3					
					計78	
評 価	各学期定期考查に平常点（ノート提出、小テスト等）を加味したものを評価の対象とする。 なお、平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別評価を含むものとする。 各学期10段階評価を行い、学年末には5段階の評定を行う。					

教科名 国語科
科目名 国語総合（自由選択）
対 象 6 学年 選択者

I 學習到達目標

- 1 大学入試に必要な、語彙力、読解力、表現力を習得する。
- 2 演習を通じて、国公立大学の個別試験、私立大学入試問題に対応できる総合力を身につける。
- 3 さまざまな文章に触れ、知識と理解を得る。

Ⅱ 授業の進め方（授業形態等）

- | |
|---|
| 1 自由選択 2 単位。志望別にⅠ A B、Ⅱ、Ⅲのクラスを設定する。
2 演習を中心に適宜補助教材・プリントを使用する。
3 予習を必ずして授業に臨むこと。 |
|---|

Ⅲ 教科書・補助教材

クラスごとに別途指示する。

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容				授業時数	備考	
		考 査	I A	I B	Ⅱ A			Ⅱ B
一 学 期	春休み 宿 題							
	4	中 間 考 査	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	15	
	5							
	5	期 末 考 査	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	15	
	6							
	7							
	夏休み 宿 題							
二 学 期	9	中 間 考 査	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	15	
	10							
	10	期 末 考 査	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	大学入試問題演習 【15時間】	15	
	11							
	12							
	冬休み 宿 題							
三 学 期	1		大学入試問題演習 【18時間】	大学入試問題演習 【18時間】	大学入試問題演習 【18時間】	大学入試問題演習 【18時間】	18	
	2							
	3							
							計 7 8	
評 価	各学期定期考査に平常点（授業態度・小テスト・課題提出状況）を加味したものを評価の対象とする。 なお平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。 各学期10段階評価と5段階の評定を行う。							

地歴科

I 地歴科の学習目標

- （1）我が国及び世界の形成の歴史的過程について理解と認識を深めさせる。
- （2）我が国及び世界の生活と文化の地域的特色について理解と認識を深めさせる。
- （3）地理や歴史を学習することを通して、国際社会に主体的に生きる力を養う。
- （4）民主的、平和的な国家・社会の一員として、必要な自覚と資質を養う。

II 地歴科の3年間の科目構成と学習内容

4年	地理B 2単位（必修）				
	1 世界の自然環境の学習を通じて「自然地理学」の基礎を学ぶ。 2 世界で展開される様々な人文現象の学習を通じて、「人文地理学」の基礎を学ぶ。 3 世界を地域区分し各地域の特色を考察する「地誌学習」の基礎を学ぶ。				
5年	世界史B（共通） 2単位（必修）	日本史B（共通） 2単位（必修）	世界史B（選択者） 1単位（必選）	日本史B（選択者） 1単位（必選）	
	1 世界の一体化を、科学技術や工業力の発展とともに捉え、各地域の相互関係を認識する。 2 ヨーロッパの市民革命やナショナリズムの展開とともに、植民地化されていくアジア・アフリカ諸地域の民族運動や今日の課題を考えさせる。 3 常に現代の世界情勢との関連性を視野に、社会科目全般の理解のための基礎的知識を身につけさせる。	1 開国(ペリーの来航)から太平洋戦争終結までを学習対象とする。 2 国際的な視野に立ち、多角的な視点をもって近現代史を学ぶ。 3 基礎的な知識を獲得すると共に歴史的思考力を培うことを目標とする。 4 流れとして日本史を把握できる力を養う。 5 特定のテーマを選び、重点的に学ぶ、主題学習を導入する。	1 帝国主義時代以降の世界について扱う。 2 二つの世界大戦について、その原因と、20世の歴史や現代にもたらした影響を学習する。 3 今日の世界状況を理するため、冷戦構造、地域紛争の原因を理解、また国際平和や環境題にも関心をもたせる。	1 太平洋戦争後から現代までおよび、近現代の文化を学習対象とする。 2 多角的な視点から学習し、歴史の基礎的な知識を得るとともに、歴史的思考力を培う。 3 歴史的資料の読解を通じて歴史への関心を高め、歴史が資料に基づいて構築されることを理解するとともに科学的なものの見方・考え方を身につける。	
6年	地理B 6単位(文必選)	地理B 2単位(理必選・文自選)	地理B演習 2単位(文・理)	世界史B 6単位(必選)	日本史B 6単位(必選)
	理必選・文自選の地理Bの内容1～4に加えて、以下の学習項目を加える。 5 世界の自然環境と人間の生活・文化の関わりについて、多角的・多面的資料から考察することで地理的な見方・考え方を醸成する。 6 地表面を様々な基準で区分し、その地域で展開される諸事象について総合的に考察する学習を行う。 7 大学入試に対応できる実践力と応用力を養成する。	1 世界で展開される産業分野について、理論的な理解、統計的数値の読み取り技能の向上、および思考・判断力を培う。 2 世界で展開される諸問題について、その現状と要因を総合的に考察し、課題解決に向けての方法を地理的に学習する。 3 地表面を国家・州・大陸という基準で区分し、その地域で展開される諸事象について総合的に考察する学習を行う。 4 大学入試に対応できる知識・技能、思考力を養成する。	1 地理Bで学んだ全分野について、理論的な理解の確認、統計的数値の読み取り技能の向上、および思考・判断力を培う。 2 大学共通テストに対応できる実践力と応用力を養成する。	1 古代～中世史における、世界諸地域の国家の成立と、諸文明、またその相互の関係を学ぶ。 2 ヨーロッパ史と中国史を基本としながら、内陸アジア史や海域史の視点から、人とモノの交流だけでなく、技術や宗教・生活等を含めて考えさせる。 3 徹底的に基礎力をつける。	1 原始・古代から近世までを学習対象とする。 2 多角的な視点から学習し、歴史の基礎的な知識を得るとともに、歴史的思考力を培う。 3 テーマや流れとして日本史を把握する。 4 問題演習などによって、学習内容をまとめていく。 5 大学入試に対応できる力を身につける。

※ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 地歴科
科目名 地理B（文系必修選択）
対象 6 学年（文系） 選択者

I 学習到達目標

- 1 4年次に学習した「自然地理学」基礎とし、大学入試に必要な「自然地理学」の応用力を習得する。
- 2 世界で展開される人文現象の学習を通じて大学入試に必要な「人文地理学」の基礎学力を習得する。
- 3 世界を「地域区分」し、各地域の特色を考察する「地誌」の深い理解を得る。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 「考えること」を重視しつつ、4 年次に学習した知識の上に応用力を身につけさせる。
- 2 教科書と補助教材に加えて様々な資料を活用して、複眼的に世界をとらえる能力を身につけさせる。
- 3 大学入試に必要な知識・技能を講義と様々な演習を通して身につけさせる。

III 教科書・補助教材

教科書	「新詳地理B」帝国書院	「新詳高等地図」帝国書院
補助教材	「新詳地理資料COMPLETE2020」帝国書院	「地理統計要覧2022年版」二宮書店
	「大学入学共通テスト地理B 単元別問題集」駿台文庫	「2020センター試験実戦問題パックV」駿台文庫

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容		
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	第Ⅱ部第1章自然環境「世界の地形」大地形・小地形 P27～45	36	
	5		第Ⅰ部第1章地理情報と地図「地図の種類とその利用」P6～21		
	6	1 学期 期 末 考 査	「世界の気候」気候の成り立ち・世界の気候区分 P50～75第Ⅱ部第1章自然環境「日本の自然災害と防災」P80～81	54	
	7		第Ⅱ部第2章資源と産業「世界の農林水産業」P94～111		
	夏 期 講 習		演習「自然環境」「農林水産業」「エネルギー・鉱工業」「人口・都市」「宗教・人種・民族」「貿易・観光・交通」		
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第Ⅲ部第2章現代世界の諸地域「東アジア」P232～246	42	
	10		「東南アジア」P247～255		
	10	2 学期 期 末 考 査	「南アジア」P247～255	54	
	11		「西アジアと中央アジア」P263～269		
	12		第Ⅱ部第1章自然環境「日本の自然の特徴」「日本地誌」P76～79 「両極地方」P70～75		
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	系統地理と地誌のまとめ	48	
	2		過去問題による演習		
	3		問題演習		
				計 234 (6単位)	
評 価	各学期定期考査に平常点（課題提出等）を加味したものを評価の対象とする。 各学期10段階評価と5段階評定を行う。				

教科名 地歴科
科目名 地理B（理系必修選択地理B・文系自由選択地理B）
対象 6 学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 4年次に学習した「自然地理学」を基礎とし、産業分野への基礎学力を習得する。
- 2 世界で展開される人文現象の学習を通じて大学入試に必要な「人文地理学」の基礎学力を習得する。
- 3 世界を「地域区分」し、各地域の特色を考察する「地誌」の深い理解を得る。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 「考えること」を重視しつつ、4年次に学習した知識の上に応用力を身につけさせる。
- 2 教科書と補助教材に加えて様々な資料を活用して、複眼的に世界をとらえる能力を身につけさせる。
- 3 大学入試に必要な知識・技能を講義と様々な演習を通して身につけさせる。

III 教科書・補助教材

教科書 「新詳地理B」 帝国書院 「新詳高等地図」 帝国書院
補助教材「新詳地理資料COMPLETE2020」 帝国書院 「地理統計要覧2022年版」 二宮書店
「大学入学共通テスト地理B 単元別問題集」 駿台文庫

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	第Ⅱ部第2章5節 世界の工業 P136～152	「地理B 単元別問題集」 P76～81、97～102	6	
	5		第Ⅱ部第3章人口、村落・都市「人口問題」 P168～175		6	
	6	1 学期 期 末 考 査	第Ⅱ部第3章人口、村落・都市「都市・居住問題」 P191～200	「地理B 単元別問題集」 P82～96、128～144	6	
	7		第Ⅲ部現代世界の地誌的考察 「ヨーロッパ」 P277～288 「アングロアメリカ」 P295～307		6 6	
	夏 講 習		演習「自然環境」「農林水産業」「エネルギー・鉱工業」「人口・都市」「宗教・人種・民族」「貿易・観光・交通」			
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第Ⅲ部現代世界の地誌的考察 「ラテンアメリカ」	「地理B 単元別問題集」 P114～119、145～152	6	
	10		「オセアニア」 「アフリカ」		4 4	
	10	2 学期 期 末 考 査	第Ⅲ部現代世界の地誌的考察「ロシア」 P289～294	地理B 単元別問題集」 P114～119	4	
	11		第Ⅰ部第1章自然環境「環境問題」 P82～93		4	
	12		第Ⅱ部第2章資源と産業「第3次産業」 P153～161 弱点分野の問題演習		4 6	
	冬 講 習		弱点分野の問題演習	過去問題による演習		
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	系統地理と地誌のまとめ 問題演習	過去問題による演習	16	
	2					
	3					
					計 78 (2単位)	
評 価	各学期定期考査に平常点（課題提出等）を加味したものを評価の対象とする。 各学期10段階評価と5段階評定を行う。					

教科名 地歴科
科目名 地理B演習（自由選択）
対象 6 学年 選択者

I 学習到達目標

1 4年次に学習した「自然地理学」、6年次に学習した「人文地理学」「地誌」を基礎とし、大学入学共通テストに対応した実践力と応用力を養成する。

II 授業の進め方（授業形態等）

1 「大学入学共通テスト地理B 単元別問題集」「センター試験・共通テスト」過去問題を活用して、演習を行っていく。
2 既習分野についての重要事項について、知識・理解の確認し、資料読解の技能を高める。

III 教科書・補助教材

教科書 「新詳地理B」 帝国書院 「新詳高等地図」 帝国書院
補助教材 「新詳地理資料COMPLETE2020」 帝国書院 「地理統計要覧2022年版」 二宮書店
「大学入学共通テスト地理B 単元別問題集」 駿台文庫

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4 5	1 学期 中 間 考 査	第Ⅰ部第1章地理情報と地図「地図の種類とその利 用」 P6～21 第Ⅱ部第1章自然環境 P28～93	「地理B 単元別問題集」 P8～46	12	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	第Ⅱ部第2章資源と産業 P94～149 第3章人口、村落、都市 P168～200	「地理B 単元別問題集」 P47～108	18	
	夏 期 講 習		演習「自然環境」「農林水産業」「エネルギー・鉱工業」「人口・都市」「宗教・人 種・民族」「貿易・観光・交通」			
二 学 期	9 10	2 学期 中 間 考 査	第Ⅲ部現代世界の地誌的考察 「アフリカ」「アジア」 「ヨーロッパ・旧ソ連」 「オセアニア」	「地理B 単元別問題集」 P114～152	14	
	10 11 12	2 学期 期 末 考 査	地域調査（日本地誌）	地理B 単元別問題集」 P153～194	18	
	冬 期 講 習		弱点分野の問題演習	過去問題による演習		
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	系問題演習	過去問題による演習	16	
					計 78 (2単位)	
評 価	各学期定期考査に平常点（課題提出等）を加味したものを評価の対象とする。 各学期10段階評価と5段階評定を行う。					

教科名 地歴科
科目名 世界史B（必修選択）
対象 6 学年（文系） 選択者

I 学習到達目標

- 1 人類の古代史が諸地域の自然環境や各地域間の交渉・交易を通して形成されていく過程を学習する。具体的には西アジアと地中海一帯の関わりとその特質、南アジアと東南アジア地域、東アジアと内陸アジア地域であるが、東アジア史においては特に日本との関わりに留意する。
- 2 ユーラシアの海域や内陸アジア史をネットワークという視点で、イスラーム国家のあり方や中国の朝貢、冊封体制を理解するとともにアジア諸国家の繁栄とその変容についても学ぶ。
- 3 第二次世界大戦後の世界における課題や日本のありかたを環境やエネルギー問題も視野にいれて歴史に学ぶ態度を育てる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 授業に即したワークシートを使用しながら、授業を進める。
- 2 必要に応じて発問、課題・ノート提出等をもとめ知識の定着を図り、定期考査では実践的な問題にあたる。
- 3 歴史の縦と横の軸を常に意識ながら学習を進めるために補講や講習を実施する。

III 教科書・補助教材

教科書	改訂版 詳説世界史B	山川出版社
補助教材	最新世界史図説タペストリー（帝国書院）	世界史B用語集（山川出版社）
	世界史Bマスター問題集（山川出版社）	大学入試共通テスト実戦問題パックV世界史B（駿台文庫）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト				
	4	1 学期 中 間 考 査	序章 先史の世界 P10	タペストリー P 54～97	36	
	5		第1章 オリエンと地中海世界 「古代オリエン」 「ギリシア」 「ローマ」 P16	マスター問題集 P 4～38		
	6		第2章 アジア・アメリカの古代文明 「インド」 「東南アジア」 「中国」 「アメリカ」 P52			
二 学 期	7	1 学期 期 末 考 査	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 「遊牧世界」 「東アジア文化圏の形成」 P77		54	
	6		第4章 イスラーム世界の形成と発展 「イスラーム世界の形成・発展」 「インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化」 P100	タペストリー P 124～152		
	7		第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 「西ヨーロッパ世界」 「東ヨーロッパ世界」 「西ヨーロッパ世界の変容」 「西ヨーロッパ中世文化」 P120	マスター問題集 P 42～62		
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	夏期講習 共通テスト対策 難関私大対策 論述対策			
三 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開 「トルコ化とイスラーム化」 「東アジア諸地域の自立化」 「モンゴルの大帝国」 P154	タペストリー P 98～122	42	
	10		第7章 アジア諸地域の繁栄 「東アジア世界の動向」 「清代の中国と隣接地域」 「トルコ・イラン世界の展開」 「ムガル帝国」 P178	マスター問題集 P 64～82		
	11		第15章 冷戦と第三世界の成立 「戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の自立」 「米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興」 「第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り」 「石油危機と世界の再編」 P371	タペストリー P 260～298	54	
	12	2 学期 期 末 考 査	第16章 現在の世界 「社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展」 「途上国の民主化と独裁政権の動揺」 「地域紛争の激化と深刻化する貧困」 「現代文明の諸特徴」 P397	マスター問題集 P 162～182		
三 学 期	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
	1	3 学期 学 年 末 考 査	共通テスト直前対策	過去問による演習	48	
	2		大学別入試対策と論述指導			
	3					
					計 2 3 4 (6 単位)	
評 価	毎学期の中間・期末考査の素点、授業への取り組み（出席・課題、ノートの提出）を総合的に判断して評価する。 各学期10段階評価を行い、学年末に5段階評定を行う。（一学期末仮5段階）					

教科名 地歴科
科目名 日本史 B (必修選択)
対象 6 学年 (文系) 選択者

I 學習到達目標

- | | |
|---|--|
| 1 | 原始・古代から近世までを学習し、日本史の基礎的な知識や理解を確実に身につける。 |
| 2 | 史資料の読み取りや問いに対する論述に取り組むことで、日本史を科学的に考察する姿勢や表現力を養う。 |
| 3 | 地理的・世界史的な分析を進めることで、日本と世界との関わりについて理解や考察を深める。 |
| 4 | 問題演習を通じて、大学入試に対応できる学力を養成する。 |

Ⅱ 授業の進め方（授業形態等）

- 1 教科書に準じたプリントを中心に、プロジェクト資料や板書を併用しながら授業をすすめていく。
- 2 必要に応じて発問や課題、ノート提出などを求め、生徒の理解の定着を確認しつつ、授業を進めていく。
- 3 通史の学習が終了次第、テーマ史学習や入試問題演習を交えた演習授業を行う。

III 教科書・補助教材

教科書：『詳説 日本史B』（山川出版社）
副教材：『新詳 日本史』（浜島書店）、『詳録 新日本史史料集成』（第一学習社）、『日本史B用語集』（山川出版社）、
『日本史B一問一答』（東進ブックス）、『スピードマスター日本史問題集』（山川出版社）
『実力をつける日本史100題』（Z会）、『大学入試共通テスト 実戦問題 パックV 日本史B』（駿台文庫）
『大学入試共通テスト 実戦模試 日本史B』（Z会）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容				授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容		副教材・その他の学習内容			
一 学 期	4 5	1 学期 中 間 考 査	第1章 「日本文化のあけぼの」 P8-33	第5章4節 「戦国大名の登場」 第6章1・2節 「織豊政権・桃山文化」 P147-168	『新詳日本史』 P27-49	『新詳日本史』 P150-162	36	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	第2章 「律令国家の形成」 P34-67 第3章 「貴族政治と国風文化」 P68-84	第6章3・4節 「幕藩体制の成立」 「幕藩社会の構造」 第7章 「幕藩体制の展開」 P169-217	P50-101	P163-191	54	
		夏休み		夏期講習 基礎復習 共通テスト・2次私大対策		『実力をつける日本史100題』		
二 学 期	9 10	2 学期 中 間 考 査	第4章 「中世社会の成立」 P86-119	第8章 「幕藩体制の動揺」 P218-248	P102-131	P192-207	42	
	10 11 12	2 学期 期 末 考 査	第5章 「武家社会の成長」 P120-146	テーマ史演習 共通テスト対策演習	P132-149	『バックV』 『実践模試』	54	
		冬休み				『実力をつける日本史100題』		
三 学 期	1 2 3		共通テスト対策演習 国公立2次試験・私大個別入試対策演習		『実践模試』 志望大学過去問		48	
							計 234 (6単位)	
	評 価	・各学期の定期考査得点の他に、授業の取り組み状況、課題の提出と内容、ノートの提出と内容、小テストの得点等を数値化して評価の対象とする。						

公民科

広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の有為な形成者にとって必要な、以下の資質・能力を身につける。

- ## Ⅱ 公民科の３年間の科目構成と学習内容

※ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 公民科
科目名 政治経済（必修選択）
対象 6学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 民主政治の基本原則とその重要性を理解し、現在における民主政治の課題を追究し考察できる力を培う。
- 2 日本国憲法を尊重し、よりよい市民として行動するための公民的資質を養う。
- 3 日本の政治のしくみや現代政治の諸課題を理解し、日本国民としての責任と自覚に対する認識を深める。
- 4 現代社会の諸課題(国際政治・国際経済)についての問題意識を高め、論理的な解決方法を思索できる思考力を培う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 政治や経済の基礎的事項・概念・理論に対する理解を、講義・協働学習・演習により定着・深化させる。
- 2 政治や経済にかかわる現代の諸課題について、知識・概念・理論を活用して論理的に思考する力を養うため、単元ごとの課題学習（ミニレポート）に課す。
- 3 政治分野の学習を先に行う。経済分野については2学期以降に学習するが、夏期講習において先取りの講習を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 「高校政治・経済」実教出版
補助教材「最新政治・経済資料集 2022」第一学習社
補助教材「4ステージ演習ノート政治・経済」数研出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	なし			
	4 5	1 学期 中 間 考 査	第1編 現代の政治 第1章 「民主政治の基本原則」 P4～19 第2章 「日本国憲法の基本的性格」 P20～52	資料集:P6～92 問題集:P2～21	12	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	第3章「日本の政治機構」 P53～73 第4章「政治参加と民主政治の課題」 P74～83 第5章「現代の国際政治」 P84～92	資料集:P93～185 問題集:P22～67	18	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	・共通テスト対策中心の夏期講習を行う。			
二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査	第2編 現代の経済 第1章「経済社会の変容」 P110～118 第2章「現代経済のしくみ」 P119～146	資料集: P186～240 問題集:P70～89	14	
	1 0 1 1 1 2	2 学期 期 末 考 査	第3章「現代経済と福祉の向上」 P147～185 第4章「世界経済と日本」 P186～213	資料集: P241～351 問題集:P90～133	18	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	なし			
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	総合演習(過去問など)	センター試験・共通テストの過去 問及び分析に基づいた予想問 資料集全般	16	
					計 78 (2単位)	
評 価	・各学期の定期考査1 0 0 点×2 回に平常点（授業への参加度、出席、課題提出など）を加味し評価する。なお、平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「知識・理解・技能」の観点別の評価を含むものとする。 ・各学期1 0 段階評価を行い、学年末に5 段階評定を行う。 ・自選政治経済受験者の評価方法 科目政治経済、科目自選政治経済として各学期に1 0 段階評価を行い、学年末に科目政治経済、科目自選政治経済と総合（合算）して、政治経済としての5 段階の評定を行う。					

教科名 公民科
科目名 政治・経済 (自由選択)
対象 6学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 経済に関する知識を深め、現代の資本主義の特質を理解する。
- 2 現代の社会に生きる国民、市民として、よりよい暮らしを確立するための意識を高める。
- 3 政治や経済について、受験に対応できる力をつける。
- 4 時事問題や現代社会の諸課題についての問題意識を高め、解決方法を思索できる思考力を培う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 政治や経済の基礎的事項・概念・理論に対する理解を、講義・演習により定着・深化させる。
- 2 政治や経済にかかわる現代の諸課題について、知識・概念・理論を活用して論理的に思考する力を養う。
- 3 経済分野の学習を先に行う。必修選択の政治経済で学んだ分野の問題演習も併せて行い、共通テストに対応できる力を養う。

III 教科書・補助教材

教科書 「高校政治・経済」実教出版
補助教材「最新政治・経済資料集 2021」第一学習社
補助教材「4ステージ演習ノート政治・経済」数研出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容			
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	なし				
	4	1 学期 中 間 考 査	第1編 現代の経済 第1章 「経済社会の変容」 P110～118 第2章 「現代経済のしくみ」 P119～133	資料集： P186～240 問題集:P70～89	12		
	5						
	6	1 学期 期 末 考 査	第3章「現代経済と福祉の向上」 P147～185	資料集： P241～311 問題集:P90～110	18		
7							
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	・ 共通テスト対策中心の夏期講習を行う。 ・ 夏休みのレポートを課すことが場合によってはある。				
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	第4章「世界経済と日本」 P186～213	資料集： P312～351 問題集:P114～133	14		
	10						
	10	2 学期 期 末 考 査	総合演習(過去問など) ・ 時事問題を取り上げながら、大学入試問題の演習を行う。	センター試験・共通テストの過去問及び分析に基づいた予想問 資料集全般	18		
	11						
12							
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	なし				
三 学 期	1	3 学期 学 年 末 考 査	総合演習(過去問など) ・ 時事問題を取り上げながら、大学入試問題の演習を行う。	センター試験・共通テストの過去問及び分析に基づいた予想問 資料集全般	16		
2							
3							
						計 78 (2単位)	
評 価	1 各学期考查を基本として、プリント提出、作業課題などを加味したものが評価の対象となる。 2 各学期 10段階評価を行い、学年末に5段階の評価を行う。 3 自選政治経済受験者の評価方法 科目政治経済、科目自選政治経済として各学期に 10段階評価を行い、学年末に科目必修選択政治経済、科目自選政治経済と総合（合算）して、政治経済としての5段階の評定を行う。						

教科名 公民科
科目名 倫理 （自由選択）
対象 6学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 人間の在り方生き方を主体(自己)との関わりから考えることができる。
- 2 自らの体験や悩みを振り返ることから課題を見いだし、それに基づいて青年期の意義と課題を多面的・多角的に考察し、豊かな自己形成に向けて探究できる。
- 3 人間としての在り方生き方について、代表的な先哲の思想や芸術家とその作品を手掛かりとして主体的かつ公正に判断できる。
- 4 日本人にみられる人間観・自然観・宗教観などの特質について、自己形成の課題とつなげて、多面的・多角的に考察できる。
- 5 「人間の尊厳と生命への畏敬」や「自然と科学技術と人間とのかかわり」について人格形成に寄与する知識として身につけている。
- 6 現代の諸事象について、倫理的視点から主体的に課題を見いだし、探究できる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 倫理にかかわる基礎的事項・概念・理論に対する理解を、講義・協働学習・演習により定着・深化させる。
- 2 倫理にかかわる現代の諸課題について、知識・概念・理論を活用して論理的に思考する力を養うため、単元ごとの課題学習（ミニレポート）に課す。
- 3 源流思想・西洋思想の学習を先に行う。日本思想・青年期・現代の倫理的課題については夏期講習で学習の先取りを行う。

III 教科書・補助教材

教科書：「新倫理 改訂版」清水書院
補助教材：「倫理資料集 新訂第二版」清水書院
補助教材：「4 ステージ演習ノート倫理」数研出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト	なし			
	4 5	1 学期 中 間 考 査	第2編 人間としての自覚と生き方 P22～77 第1章 人生における哲学 P22～ 第2章 人生における宗教 P38～ 第3章 人生の知恵 P61～ 第4章 人生における芸術 P70～	資料集：P20～81 問題集：P14～41	12	
	6 7	1 学期 期 末 考 査	第3編 現代社会と倫理 P78～141 第1章 現代の倫理的課題 P78～ 第2章 現代に生きる人間の倫理 P82～	資料集：P163～267 問題集：P42～85	18	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト	・共通テスト対策中心の夏期講習を行う。			
二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 P142～193 第1章 日本の風土と外来思想の受容 P142～ 第2章 現代の日本と日本人としての自覚 P190～	資料集：P82～162 問題集：P86～117	14	
	1 0 1 1 1 2	2 学期 期 末 考 査	第5編 現代の諸課題と倫理 P194～219 第1章 生命と倫理 P194～ 第2章 環境と倫理 P199～ 第3章 現代の家族とその課題 P204～ 第4章 地域社会の変容と共生 P207～ 第5章 情報社会とその課題 P210～ 第6章 グローバル化の時代と倫理 P214～ 第7章 人類の福祉と国際平和 P217～ 第1編 現代に生きる自己の課題 P6～21 第1章 人間とは何か P6～ 第2章 青年期の課題と自己形成 P9～	資料集：P6～19, P268～291 問題集：P4～13, P118～135	18	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト	なし			
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	総合演習(過去問など)	センター試験・共通テストの過去 問及び分析に基づいた予想問 資料集全般	16	
					計 78 (2単位)	
評 価	1 2	各学期考查を基本として、プリント提出、作業課題などを加味したものが評価の対象となる。 各学期 1 0 段階評価を行い、学年末に 5 段階の評価を行う。				

数学科

I 数学科の学習目標

- （1）数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深める。
- （2）事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培う。
- （3）数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。

II 数学科の3年間の科目構成と学習内容

4年	数Ⅰ（必修） 3単位			数A（必修） 2単位						
	1	数を実数まで拡張する意義や、集合と命題に関する基本的な概念を理解できるようにする。式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。		1	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
5年	2	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。		2	整数の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
	3	二次関数とそのグラフについて理解し、二次関数を用いて数量関係や変化を表現することの有用性を認識すると共に、それらを事象の考察に活用できるようにする。		3	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
6年	4	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。								
	数Ⅱ（必修） 4単位			数B（必修） 2単位						
7年	1	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。		1	簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。					
	2	座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。		2	ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。					
8年	3	指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		3	確率変数とその分布統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。					
	4	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。								
9年	5	微分積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。								
10年	文系・文理系 数 α （自由選択） 2単位		文系・文理系 数 β （自由選択） 2単位	文系・文理系 数 γ （自由選択） 4単位	文理系 数Ⅱ（必修） 5単位	理系 数Ⅲ・演習（必修） 7単位（数Ⅲ4＋演習3）				
	1	大学入学共通テストⅠAでの高得点を目指し、処理スピードを高め、解答力を養う。	1	大学入学共通テストⅠAⅡBでの高得点を目指し、処理スピードを高め、解答力を養う。	1	難関国公立大学2次試験等に対応できる、高い記述力と解答力を身に付ける。	1	大学入学共通テストⅠAⅡBでの高得点を目指し、処理スピードを高め、解答力を養う。	1	平面上の曲線が様々な式で表されること及び複素数平面について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
11年	2	演習を通して、既習分野における基礎基本を確立し、数学ⅠAの体系的理解を目指す。	2	演習を通して、既習分野における基礎基本を確立し、数学ⅠAⅡBの体系的理解を目指す。	2	重要例題から発展問題までの演習を通して、高校数学の体系的理解を目指す。	2	国公立大学2次試験に対応した、高い記述力と解答力を身に付ける。	2	数列や関数値の極限の概念を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	3	大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。	3	大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。	3	大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。	3	大学入試問題と多様な解法に触れることで、分野横断的に考察する力と解決する力を養う。	3	微分法の理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。
12年				4	高い基礎力に基づいた幅広い応用力と発想力を養い、論理的思考力の更なる向上を目指す。			4	積分法の理解を深めるとともに、その有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	

教科名 数学科
科目名 数学A（自由選択）数学演習α
対象 文系（共通テストⅠA対応）

I 学習到達目標

- 1 問題演習を通して、数学ⅠAの基礎基本を確認し、応用力を養う。
- 2 共通テストにおける頻出例題や重要例題の解法を身に付ける。
- 3 高校数学ⅠAの高い応用力を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 問題演習に取り組む
 - 生徒による黒板での記述解答と解説。（事前指名による分担。予習を原則とする。）
 - 別解の解説や記述内容の添削。
- 2 考查前や長期休業中に課題等あり。確認テスト、模擬テスト等の実施による実力確認あり。

III 教科書・補助教材

教科書	「改訂版 数学Ⅰ」「改訂版 数学A」数研出版
補助教材	「ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」文英堂 「攻略！共通テスト Pick Up 128 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B」東京書籍 「増補改訂版 チャート式基礎からの数学Ⅰ+A」数研出版 「2022共通テスト直前対策問題集 Vol.3 数学Ⅰ・A Jシリーズ」河合出版

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容			授業 時数	備考
		考查	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み	校内模試	「定石」	「ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」		
	4 5	中間	「ウィナー2」◆定石 数と式 2次関数 データの分析 図形と計量 場合の数と確率	「増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A」 「ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」	10	
	6 7	期末	整数の性質 図形の性質 「攻略！共通テストPick Up 128 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B」 1章 数と式 P6～P14 2章 2次関数 P15～P28	「増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A」 「ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」	14	
	夏休み					
二 学 期	9 10	中間	「攻略！共通テストPick Up 128 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B」 3章 図形と計量 P29～P41 4章 集合と論証 P42～P49 5章 データの分析 P50～P65 6章 場合の数と確率 P66～P79 7章 整数の性質 P80～P91 8章 図形の性質 P92～P102	「増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A」 「ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」	16	
	11 12	期末	「攻略！共通テストPick Up 128 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B」 9章 完成問題 P104～P141 ◆共通テスト演習	「増補改訂版 チャート式 基礎からの数学Ⅰ+A」 「Jシリーズ」河合出版	16	
	冬休み					
三 学 期	1 2 3	学年末	◆共通テスト演習	「Jシリーズ」河合出版	22	
					計 78 (2単位)	
評 価	1 評価評定について ・各学期に10段階で評価する ・10段階をもとに5段階で評定する 2 評価評定の対象 ・定期考查（各100点） ・宿題テスト、校内模試（50点換算） ・平常点（ノート・プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）					

教科名 数学科
科目名 数学B（自由選択）数学演習β
対象 文系（共通テストⅠAⅡB対応）

I 学習到達目標

- 1 問題演習を通して、数学ⅠAⅡBの基礎基本を確認する。
- 2 共通テストにおける頻出例題や重要例題の解法を身に付ける。
- 3 高校数学ⅠAⅡBの高い応用力を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 問題演習に取り組む
 - 生徒による黒板での記述解答と解説。（事前指名による分担。予習を原則とする。）
 - 別解の解説や記述内容の添削。
- 2 考査前や長期休業中に課題等あり。確認テスト、模擬テスト等の実施による実力確認あり。

III 教科書・補助教材

教科書	「改訂版 数学Ⅰ」「改訂版 数学A」「改訂版 数学Ⅱ」「改訂版 数学B」数研出版
補助教材	「ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」文英堂 「攻略！共通テスト Pick Up 128 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B」東京書籍 「増補改訂版 チャート式基礎からの数学Ⅰ+A」「増補改訂版 チャート式基礎からの数学Ⅱ+B」数研出版 「2022共通テスト直前対策問題集 Vol.3 数学Ⅰ・A Jシリーズ」河合出版 「2022共通テスト直前対策問題集 Vol.4 数学Ⅱ・B Jシリーズ」河合出版

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容			授業 時数	備考
		考査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み	校内模試	「定石」	「ウィナー2 数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」		
	4 5	中間	ウィナー2 ◆定石 数列 数と式 2次関数 データの分析 図形と計量 場合の数と確率 整数の性質 図形の性質 攻略！共通テスト Pick Up 128 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B 1章 方程式・式と証明 P144～P150 2章 図形と方程式 P151～P161	「サクシード 数学Ⅱ+B」 「増補改訂版 基礎からのチャート式 数学Ⅱ+B」	10	
	6 7	期末	3章 三角関数 P162～P174 4章 指数関数・対数関数 P175～P183 5章 微分・積分 P184～P202 6章 数列 P203～P216 7章 ベクトル P217～P232	「サクシード 数学Ⅰ+A」 「増補改訂版 基礎からのチャート式 数学Ⅰ+A」	14	
	夏休み					
二 学 期	9 10	中間	1章 数と式 P6～P14 2章 2次関数 P15～P28 3章 図形と計量 P29～P41 4章 集合と論証 P42～P49 5章 データの分析 P50～P65 6章 場合の数と確率 P66～P79 7章 整数の性質 P80～P91 8章 図形の性質 P92～P102	「サクシード 数学Ⅰ+A」 「増補改訂版 基礎からのチャート式 数学Ⅰ+A」 「サクシード 数学Ⅱ+B」 「増補改訂版 基礎からのチャート式 数学Ⅱ+B」	16	
	11 12	期末	「攻略！共通テストPick Up 128 数学Ⅰ+A／Ⅱ+B」 9章 完成問題 P104～P141 9章 完成問題 P233～P254 ◆共通テスト演習	「Jシリーズ」河合出版	16	
	冬休み					
三 学 期	1 2 3	学年末	◆共通テスト演習	「Jシリーズ」	22	
					計 78 (2単位)	
評 価	1 評価評定について ・各学期に10段階で評価する ・10段階をもとに5段階で評定する 2 評価評定の対象 ・定期考査（各100点） ・宿題テスト、校内模試（50点換算） ・平常点（ノート・プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）					

教科名 数学科
科目名 数学B（自由選択）数学演習ⅳ
対象 文系（国公立2次対策）

I 学習到達目標

- 1 高校数学ⅠAⅡBの内容を踏まえ、基礎基本を確認し、応用問題に対応する力をつける。
- 2 大学受験における2次試験レベルの問題を解けるようにする。
- 3 高校数学ⅠAⅡBの応用力を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 問題演習に取り組む
 - 生徒による黒板での記述解答と解説。（事前指名による分担。予習を原則とする。）
 - 別解の解説や記述内容の添削。
- 2 考查前や長期休業中に課題等あり。確認テスト、模擬テスト等の実施による実力確認あり。

III 教科書・補助教材

教科書	「改訂版 数学Ⅰ」「改訂版 数学A」「改訂版 数学Ⅱ」「改訂版 数学B」数研出版
補助教材	「スタンダード数学演習ⅠⅡAB」 数研出版 「ウィナー2数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」文英堂 「増補改訂版 チャート式基礎からの数学Ⅰ＋A」「増補改訂版 チャート式基礎からの数学Ⅱ＋B」数研出版 「2022共通テスト直前対策問題集 Vol.3 数学Ⅰ・A Jシリーズ」河合出版 「2022共通テスト直前対策問題集 Vol.4 数学Ⅱ・B Jシリーズ」河合出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授 業 時 数	備 考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
	春休み	校内模試	「定石」	「ウィナー2数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」		
一 学 期	4	中 間	ウィナー2 ◆定石 数列 大学入試問題演習「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」A*問題 Ⅰ 数と式 P4～P9 Ⅱ 関数と方程式・不等式 P10～P19 Ⅲ 式と証明、論理 P20～P27 Ⅳ 整数の性質 P28～P31 Ⅴ 場合の数と確率 P32～P41 Ⅵ 図形の性質 P44～P47	「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」 「スタンダード 数学Ⅰ＋A」 「青チャート 数学Ⅰ＋A」 「サクシード 数学Ⅱ＋B」 「青チャート 数学Ⅱ＋B」	20	
	5					
	6		Ⅶ 図形と式 P48～P57 Ⅷ 三角・指数・対数関数 P58～P69 Ⅸ 微分法・積分法 P70～P85 Ⅹ ベクトル P88～P97 Ⅺ 数列 P100～P109 Ⅻ データの分析 P112～P113	「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」 「スタンダード 数学Ⅰ＋A」 「青チャート 数学Ⅰ＋A」 「サクシード 数学Ⅱ＋B」 「青チャート 数学Ⅱ＋B」	28	
	7	期 末				
	夏休み					
二 学 期	9	中 間	大学入試問題演習「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」B*問題 Ⅰ 数と式 P4～P9 Ⅱ 関数と方程式・不等式 P10～P19 Ⅲ 式と証明、論理 P20～P27 Ⅳ 整数の性質 P28～P31 Ⅴ 場合の数と確率 P32～P41 Ⅵ 図形の性質 P44～P47 Ⅶ 図形と式 P48～P57 Ⅷ 三角・指数・対数関数 P58～P69 Ⅸ 微分法・積分法 P70～P85 Ⅹ ベクトル P88～P97 Ⅺ 数列 P100～P109 Ⅻ データの分析 P112～P113	「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」 「スタンダード 数学Ⅰ＋A」 「青チャート 数学Ⅰ＋A」 「サクシード 数学Ⅱ＋B」 「青チャート 数学Ⅱ＋B」	32	
	10					
	11 12	期 末	◆共通テスト演習ⅠAⅡB	「Jシリーズ」河合出版	32	
	冬休み					
三 学 期	1 2 3		◆共通テスト演習	「Jシリーズ」河合出版 「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」	44	
					計 156 (4単位)	
評 価	1 評価評定について ・各学期に10段階で評価する ・10段階をもとに5段階で評定する 2 評価評定の対象 ・定期考查（各100点） ・宿題テスト、校内模試（50点換算） ・平常点（ノート・プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）					

教科名 数学科
科目名 数Ⅱ（必修）
対象 6 学年 理系

I 学習到達目標

- 1 問題演習を通し、基本的な計算や考え方の理解を深める。
- 2 大学入試対策として高校数学ⅠAⅡBの総合演習に取り組み、多様な解法を学び、応用力を養う。
- 3 記述試験に対応できる実力を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 問題演習に取り組む
 - 生徒による黒板での記述解答と解説。（事前指名による分担。予習を原則とする。）
 - 別解の解説や記述内容の添削。
- 2 考査前や長期休業中に課題等あり。確認テスト、模擬テスト等の実施による実力確認あり。
- 3 その他、進捗状況に応じて、授業で連絡。

III 教科書・補助教材

教科書	「改訂版 数学Ⅰ」「改訂版 数学A」「改訂版 数学Ⅱ」「改訂版 数学B」数研出版
補助教材	「四訂版 メジアン数学演習ⅠAⅡB受験編」数研出版「ウィナー2数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」文英堂 「2022共通テスト直前対策問題集 Vol.3 数学Ⅰ・A Jシリーズ」河合出版 「2022共通テスト直前対策問題集 Vol.4 数学Ⅱ・B Jシリーズ」河合出版

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容			授業 時数	備考
		考査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一学期	春休み	校内模試	「定石」	「ウィナー2数学Ⅰ・A・Ⅱ・B」		
	4 5	中間	ウィナー2 ◆定石 数列 メジアン ◆A問題の演習 Ⅶ 図形と式 P46～P53 Ⅷ 三角・指数・対数関数 P54～P65 Ⅸ 微分法・積分法 P66～P81 Ⅹ ベクトル P82～P91 Ⅺ 数列 P92～P101 Ⅻ データの分析 P102～P103	「スタンダード 数学Ⅰ+A」 「青チャート 数学Ⅰ+A」 「サクシード 数学Ⅱ+B」 「青チャート 数学Ⅱ+B」	25	
	6 7	期末	Ⅰ 数と式 P4～P9 Ⅱ 関数と方程式・不等式 P10～P21 Ⅲ 式と証明、論理 P22～P27 Ⅳ 整数の性質 P28～P33 Ⅴ 場合の数・確率 P34～P41 Ⅵ 図形の性質 P42～P45	「スタンダード 数学Ⅰ+A」 「青チャート 数学Ⅰ+A」 「サクシード 数学Ⅱ+B」 「青チャート 数学Ⅱ+B」	35	
	夏休み					
二学期	9 10	中間	◆B問題の演習 Ⅶ 図形と式 P46～P53 Ⅷ 三角・指数・対数関数 P54～P65 Ⅸ 微分法・積分法 P66～P81 Ⅹ ベクトル P82～P91 Ⅺ 数列 P92～P101 Ⅰ 数と式 P4～P9 Ⅱ 関数と方程式・不等式 P10～P21 Ⅲ 式と証明、論理 P22～P27 Ⅳ 整数の性質 P28～P33 Ⅴ 場合の数・確率 P34～P41 Ⅵ 図形の性質 P42～P45	「スタンダード 数学Ⅰ+A」 「青チャート 数学Ⅰ+A」 「サクシード 数学Ⅱ+B」 「青チャート 数学Ⅱ+B」	40	
	10 11 12	期末	◆共通テスト演習ⅠAⅡB	大学入学共通テスト、大学入試センター試験 過去問 「Jシリーズ」河合出版	40	
	冬休み					
三学期	1 2 3	学年末	◆共通テスト演習ⅠAⅡB 大学入試2次試験対策 過去問への取り組み、メジアンの復習	「Jシリーズ」河合出版 大学入学共通テスト、大学入試センター試験 過去問	55	
					計 195 (5単位)	
評価	1 評価評定について ・各学期に10段階で評価する ・10段階をもとに5段階で評定する 2 評価評定の対象 ・定期考査（各100点） ・宿題テスト、校内模試（50点換算） ・平常点（ノート・プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）					

教科名 数学科
科目名 数学Ⅲ（必修）
対象 6 学年 理系

I 学習到達目標

- 1 極限，微分法および積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図る。
- 2 問題演習や課題の添削を通して計算力や記述力を習得する。
- 3 大学入試に向けて段階を踏まえた学習を行い高校数学Ⅲの応用力を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 予習、復習を要する授業を実施する。
- 2 授業は「例題」の解説と「問」の解法がしめる。復習として、問題集等の練習問題を反復して解く。
2 学期以降は演習形式の授業
 - 生徒による黒板での記述解答と解説。（事前指名による分担。予習を原則とする。）
 - 別解の解説や記述内容の添削。
- 3 確認テストによる理解度チェック、プリント、ノート、課題提出による取組状況確認を定期的に行う。
- 4 考査前や長期休業中に課題等あり。確認テスト、模擬テスト等の実施による実力確認あり。

III 教科書・補助教材

教科書	「改訂版 数学Ⅲ」数研出版
補助教材	「改訂版 4STEP 数学Ⅲ」数研出版
	「四訂版クリアー数学演習Ⅲ」数研出版
	「2022共通テスト直前対策問題集 Vol. 3 数学Ⅰ・A Jシリーズ」河合出版
	「2022共通テスト直前対策問題集 Vol. 4 数学Ⅱ・B Jシリーズ」河合出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授 業 時 数	備 考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み	校内模試	総復習問題			
	4 5	中間	第4章 極限 P104～P148 第5章 微分法 P150～P176 第6章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 P178～P205 接線と法線 平均値の定理 関数の値の変化 関数の最大と最小 関数のグラフ 方程式、不等式への応用 第2節 速度と近似値 P206～P214 「最大・最小」「方程式・不等式への応用」 「速度・加速度」「近似値」	「4STEP 数学Ⅲ」	22	
	6 7	期末	第7章 積分法 第1節 不定積分 P216～P229 不定積分とその基本性質 置換積分法 部分積分法 いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分 P230～P250 定積分とその基本性質 定積分の置換積分法 定積分の部分積分法 第8章 積分法の応用 P252～P274 面積 体積 曲線の長さ 速度と道のり	「4STEP 数学Ⅲ」	28	
	夏休み					
二 学 期	9 10	中間	問題集「クリアー数学演習Ⅲ」 Ⅰ 複素数平面 P4～P9 Ⅱ 式と曲線 P10～P15 Ⅲ 関数 P16～P19 Ⅳ 極限 P20～P31 Ⅴ 微分法 P32～P35 Ⅵ 微分法の応用 P36～P47 Ⅶ 積分法 P48～P59 Ⅷ 積分法の応用 P60～P69	「四訂版クリアー数学演習Ⅲ」	32	
	10 11 12	期末	◆共通テスト演習 ◆過去問演習	「Jシリーズ」河合出版 「四訂版クリアー数学演習Ⅲ」	32	
	冬休み					
三 学 期	1 2 3	学年末	◆共通テスト演習 ◆過去問演習	「Jシリーズ」河合出版 「四訂版クリアー数学演習Ⅲ」	44	
					計 156 (4単位)	
評 価	1 評価評定について ・各学期に10段階で評価する ・10段階をもとに科目「数学Ⅲ」、科目「数学Ⅲ演習」と総合（合算）して5段階で評定する 2 評価評定の対象 ・定期考査（各100点） ・宿題テスト、校内模試（50点換算） ・平常点（ノート・プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）					

教科名 数学科
科目名 数学Ⅲ演習（必修）
対象 6 学年（理系）

I 学習到達目標

- 1 既習の微分法・積分法の基本的な考え方や計算を踏まえて、様々な関数の微分や積分の計算をできるようにする。
- 2 大学受験における二次試験レベルの問題を解けるようにする。
- 3 高校数学ⅠAⅡBⅢの応用力を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 予習、復習を要する授業を実施する。
- 2 授業は「例題」の解説と「問」の解法がしめる。復習として、問題集等の練習問題を反復して解く。
2 学期以降は演習形式の授業
 - ・生徒による黒板での記述解答と解説。（事前指名による分担。予習を原則とする。）
 - ・別解の解説や記述内容の添削。
- 3 確認テストによる理解度チェック、プリント、ノート、課題提出による取組状況確認を定期的に行う。
- 4 考査前や長期休業中に課題等あり。確認テスト、模擬テスト等の実施による実力確認あり。

III 教科書・補助教材

教科書	「改訂版 数学Ⅲ」数研出版 「改訂版 数学Ⅰ」「改訂版 数学A」「改訂版 数学Ⅱ」「改訂版 数学B」数研出版
補助教材	「改訂版 4STEP 数学Ⅲ」数研出版 「チャート式 基礎からの数学Ⅲ」数研出版 「チャート式 基礎からの数学Ⅰ＋A」数研出版 「チャート式 基礎からの数学Ⅱ＋B」数研出版 「2022スタンダード 数学演習ⅠAⅡB（受験編）」数研出版 〔四訂版クリアー数学演習Ⅲ〕数研出版 「2022共通テスト直前対策問題集 Vol. 3 数学Ⅰ・A Jシリーズ」河合出版 「2022共通テスト直前対策問題集 Vol. 4 数学Ⅱ・B Jシリーズ」河合出版

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授 業 時 数	備 考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
	春休み					
一 学 期	4 5	中間	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 P36～P62 放物線 楕円 双曲線 2次曲線の平行移動 2次曲線と直線 2次曲線の性質 第2節 媒介変数表示と極座標 P63～P84 曲線の媒介変数表示 極座標と極方程式 リサージュ曲線	「改訂版 4STEP 数学Ⅲ」P4～P16 「四訂版クリアー数学演習Ⅲ」P4～P9	15	
	6 7	期末	大学入試問題演習「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」問題 Ⅰ 数と式 P4～P9 Ⅱ 関数と方程式・不等式 P10～P19 Ⅲ 式と証明、論理 P20～P27 Ⅳ 整数の性質 P28～P31 Ⅴ 場合の数と確率 P32～P41 Ⅵ 図形の性質 P44～P47	「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」	21	
	夏休み					
二 学 期	9 10	中間	大学入試問題演習「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」 Ⅵ 図形の性質 P44～P47 Ⅶ 図形と式 P48～P57 Ⅷ 三角・指数・対数関数 P58～P69 Ⅸ 微分法・積分法 P70～P85 Ⅹ ベクトル P88～P97 Ⅺ 数列 P100～P109 Ⅻ データの分析 P112～P113	「青チャート 数学Ⅰ＋A」：全範囲 「青チャート 数学Ⅱ＋B」：全範囲 「スタンダード 数学演習ⅠAⅡB」	24	
	11 12	期末	◆共通テスト演習ⅠAⅡB	「Jシリーズ」河合出版	24	
	冬休み					
三 学 期	1 2 3		◆共通テスト演習ⅠAⅡB	「Jシリーズ」河合出版	33	
					計 117 (3単位)	
評 価	1 評価評定について ・各学期に10段階で評価する ・10段階をもとに科目「数学Ⅲ」、科目「数学Ⅲ演習」と総合（合算）して科目「数学Ⅲ」として5段階で評定する 2 評価評定の対象 ・定期考査（各100点） ・宿題テスト、校内模試（50点換算） ・平常点（ノート・プリント提出状況、学期中の宿題、長期休業中の宿題、授業態度等）					

3年間を見通した教科の指導計画（令和2年度入学生）

理科

I 理科の学習目標

- (1) 目的意識をもって実験・観察などを行い、探究心を高め、自然を主体的に学習する態度を育成する。
- (2) 実験・観察を通して探究活動を行い、科学的に自然を調べる方法を身につけ、問題解決能力を育成する。
- (3) 自然の事物・現象に見られる原理・法則等を理解し、自然について分析的、総合的に考察する能力を養い、科学的な自然観を育成する。
- (4) 科学や自然と人間とのかかわりの視点に立ち、自然を総合的にみる見方や、科学的なものの見方を育成する。

II 理科の3年間の科目構成と学習内容

4 年	物理基礎 必修 2単位	生物基礎 必修 2単位		
	中学までに学んでいる自然の見方、探求の仕方を再確認し、その方法を用いて、身近な生活にみられる運動とエネルギー、熱、波、電気について学習する。	1「生物と遺伝子」では、細胞の構造と機能の概要や、DNAの構造と遺伝子の発現の仕組みを理解する。 2「生物の体内環境の維持」では、恒常性の仕組みを理解し、体内環境の維持と免疫・健康との関係について学ぶ。 3「生物の多様性と生態系」では、植生の多様性と生態系の成り立ちを理解しその保全の重要性を学ぶ。		
5 年	物理 理系必修 4単位	生物 理系必修 4単位	化学基礎 必修選択 3単位	地学基礎 必修選択 3単位
	物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、物理学的に探究する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。 ここでは、物理基礎の応用として、平面内の運動、剛体、運動量、円運動・単振動・惑星の運動、熱と気体、電磁気について学ぶ。	生物に関する事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、生物学的に探究する態度を育てる。生物の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、生命現象を科学的にとらえる自然観を育成する。 具体的には「生命現象と物質」、「遺伝子のはたらき」、「生殖と発生」、「生物の環境応答」、「生態と環境」の分野について学習する。	科学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、科学的に探求する態度を育てる。化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 具体的には、「物質の状態」および「物質の変化」を学習する。	1「固体地球とその変動」 プレートの分布と運動及びプレート運動に伴う大地形の形成、火山活動と地震の発生のしくみについて理解する。 2「移り変わる地球」 地層が形成される仕組みと地質構造、古生物の変遷と地球環境の変化について理解する。 3「大気・海洋と気象」 大気の大循環と海水の運動及びそれらによる地球規模の熱の輸送について理解し、日本で見られる季節の気象について学ぶ。 4「宇宙の構成」 実験・観察を通して宇宙と惑星としての地球の特徴を理解する。 5「自然との共生」 地球環境の変化を科学的に考察する。
6 年	必修選択 物理演習 理系 2単位 5年次の学習内容に引き続き、物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育むと共に、基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を身につける。ここでは、電磁気、原子について学ぶ。	必修選択 生物 理系で5年次に生物を履修しなかった人向け 4単位 内容は5年次の生物と同様。 必修選択 生物演習 2単位 5年次の学習内容に引き続き、「生物の進化と系統」の分野について学習する。全体の復習も行い、国公私立を問わず個別試験に対応すべく、副教材などを活用した問題演習を行う。	化学 理系・文理系必選 6単位 1 化学平衡状態の存在および法則性、種々の条件変化によるその移動について理解する。 2 無機物質について周期表を基に、金属・非金属ごとに単体や化合物の性質を広く学ぶ。 3 生体を構成する有機化合物にはどのようなものがあるか、また組成や構造がその性質とどのように関連しているかを理解する。 4 合成高分子化合物について、その組成や構造と性質の関連性を理解し、化学的な理解を深める。 『化学』全範囲終了後は、センター試験・国公立二次試験等に対応できるよう、問題演習を行う。 自由選択 化学 理系 2単位 私大・国公立試験の入試問題演習等の練習・解説を通して、理工系大学進学に対応した力を養成する。	地学 理系・文理系 必選 6単位 (1)地球の概観 地球の形状や内部構造を観察、実験などを通して探究し、地球の概観を理解する。 (2)地球の活動と歴史 地球に見られる様々な事物・現象を観察、実験などを通して探究し、地球の活動と歴史を理解する。 (3)地球の大気と海洋 地球の大気と海洋の事物・現象を観察、実験などを通して探究し、大気と海洋の構造や運動を理解する。 (4)宇宙の構造 宇宙に関する事物・現象を観察、実験などを通して探究し、宇宙の構造について理解する。 ※理系センター試験と二次試験向けの演習も行う。
	自由選択 物理 理系 2単位 私大・国公立試験の入試問題演習等の練習・解説を通して、理工系大学進学に対応した力を養成する。 自選 物理基礎 文理系・文系 1単位 4年次に学習した『物理基礎』の学習内容を補填し、かつ、センター試験『物理基礎』に対応した演習を行う。	自由選択 生物 理系 2単位 大学入学共通テストに対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。 自由選択 生物基礎 文系・理系 1単位 大学入学共通テストに対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。	自選 化学基礎 文理系・文系 1単位 センター試験『化学基礎』に対応し、副教材などを活用した問題演習を行う。	自選 地学基礎 文理系・文系 1単位 5年次の学習で不十分なところを補充するとともに、各単元の重要事項を整理し、文系センター試験をターゲットとした問題演習を行う。

※ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 理科

科目名 物理演習（必修選択）

対象 6学年理系

I 学習到達目標

- 1 力学のさまざまな現象について、力とエネルギーの観点でそれらを理解する。
- 2 電磁気のさまざまな現象について、力とエネルギーの観点でそれらを理解する。
- 3 熱力学のさまざまな現象について、力とエネルギーの観点でそれらを理解する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 観察や実験（思考実験）等により、現象を観察し過程と結果を記録し、考察する能力を育てる。
- 2 必ず毎時間家庭での復習が必要。（内容の確認や問題演習に取り組む。）
- 3 既習事項確認の小テストを行い、個人の能力に応じた問題を解くよう指導助言をしていく。

III 教科書・補助教材

教科書	「物理」数研出版				
補助教材	「セミナー物理」	第一学習社・	「物理重要問題集」	数研出版・	「共通テスト パックV 物理」 駿台文庫

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考	
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容			
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト					
	4	1 学期 中 間 考 査	電流と磁界 P 2 6 6 ～ 2 6 9 磁場について 電流がつくる磁場 P 2 7 0 ～ 2 7 3 直線・円形・ソレノイドコイルが作る電流 電流が磁場から受ける力 P 2 7 4 ～ 2 7 9 電磁力について(モーターの仕組み) ローレンツ力 P 2 8 0 ～ 2 8 4 電磁誘導の法則 P 2 8 6 ～ 2 9 5 ローレンツ力と誘導起電力の関係・レンツの法則	「物理 重要問題集」 P 7 5 ～ 8 6 「セミナー物理」第一学習社 P 1 2 4 ～ 1 4 5	1 1 ～ 1 3		
	5						
	6						
	7	1 学期 期 末 考 査	交流の発生 P 2 9 6 ～ 3 0 0 自己誘導と相互誘導 P 3 0 0 ～ 3 0 5 インダクタンスとリアクタンス 交流回路 P 3 0 6 ～ 3 1 9 インピーダンスと共振現象	「物理 重要問題集」 P 8 7 ～ 9 3 「セミナー物理」第一学習社 P 1 4 6 ～ 1 6 0	1 3 ～ 1 5		
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト					
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	原子分野 電子と光 P 3 3 4 ～ 3 5 6 原子と原子核 P 3 5 8 ～ 3 8 8	「物理 重要問題集」 P 9 4 ～ 1 2 6 「セミナー物理」第一学習社 P 1 6 4 ～ 2 2 7	1 1 ～ 1 3		
	1 0						
	1 1						
	1 2	2 学期 期 末 考 査	共通テスト対策演習(補助教材を使用) 国公立 2 次、私大対策演習(補助教材等を使用)	「バック V 物理基礎」 「物理 重要問題集」 P 4 4 ～ 7 4	5 ～ 7		
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト					
三 学 期	1		国公立 2 次、私大対策演習(補助教材等を使用)	大学入試過去問の演習	1 8 ～ 2 0		
	2						
	各学期考查に平常点（出席状況、提出物、実験レポート等）を加味したものを評価の対象とする。 各学期 1 0 段階の評価を行い、学年末に 5 段階の評定を行う。なお、平常点には「意欲・態度」についての評価を含むものとする。					計 7 8 (2 単位)	

教科名 理 科
科目名 物理（自由選択）
対 象 6 学年（理系） 選択者

I 学習到達目標

1. 基本的な問題の演習を通して、物理現象の理解と解答を出す方法を身につける。
2. 既出の良問により、より深く物理の現象を理解し、共通テスト、私大入試、国公立二次試験に対応できる能力を養成する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- (1) 過去問のプリントや問題集(アクセス・重要問題集)に取り組む。
- (2) 問題解説と実験により、問題の理解を図る。

III 教科書・副教材

副教材	「セミナー物理」 「物理重要問題集」	第一学習社 数研出版
-----	-----------------------	---------------

IV 学習計画

学	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	1 学期 中 間 考 査	「力学分野」 ・ 等加速度運動 ・ 運動の法則 ・ 抵抗力を受ける運動	セミナー物理 P2～P17 物理 重要問題集 P3～P24	6	
	5					
	6	1 学期 期 末 考 査	「力学分野」 ・ 運動量の保存 ・ 円運動と万有引力 ・ 単振動と単振り子 「熱力学分野」 ・ 気体分子の運動 ・ 状態変化	セミナー物理 P18～P91 物理 重要問題集 P25～P55	8	
	7					
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	「波動分野」 ・ 音波 ・ 光波 「電磁気分野」 ・ 静電気力と電場 ・ コンデンサー ・ 電流と磁場	セミナー物理 P92～P173 物理 重要問題集 P56～P98	7	
	10					
	10	2 学期 期 末 考 査	「電磁気分野」 ・ 電磁誘導 ・ 交流回路 「原子」 ・ 電子と光 ・ 原子と原子核	セミナー物理 P174～P231 物理 重要問題集 P99～P126	8	
	11					
	12					
三 学 期	1	3 学期	・ 共通テスト対策演習 ・ 国公立2次、私大対策演習	授業プリント	10	
	2					
	3					
					計 39 (1単位)	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」表現の4つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期、100点満点）、 ②提出物（宿題・テスト直し） ③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

教科名 理科
科目名 物理基礎（自由選択）
対象 6 学年（文理系・文系） 選択者

I 学習到達目標

- 1 基本的な問題の演習を通して、物理現象の理解と解答を導き出す方法を身につける。
- 2 既出の良問により、より深く物理の現象を理解し、共通テスト（物理基礎）に対応できる能力を養成する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 過去問のプリントや問題集に取り組む。
- 2 問題解説と実験により、問題の理解を図る。

III 教科書・補助教材

教科書 「物理基礎」 数研出版
補助教材「セミナー物理基礎」 第一学習社
「物理基礎 単元別問題集」 駿台文庫
「パックV 物理基礎」 駿台文庫

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト				
	4 5	 1 学期 中 間 考 査	運動とエネルギー P 6 ～ 7 2 運動の表し方の復習と問題演習 運動の法則の復習と問題演習	「物理基礎 単元別問題集」 運動とエネルギー P 1 2 ～ 3 9	5 ～ 6	
	6 7	 1 学期 期 末 考 査	仕事と力学的エネルギー P 7 4 ～ 9 6 仕事と力学的エネルギーの復習と問題演習	「物理基礎 単元別問題集」 運動とエネルギー P 4 0 ～ 6 2	7 ～ 8	
	夏休み 宿 題	宿 題 テスト				
二 学 期	9 1 0	 2 学期 中 間 考 査	熱 P 1 1 2 ～ 1 1 2 9 熱とエネルギーの復習と問題演習 波 P 1 3 4 ～ 1 5 8 波の性質の復習と問題演習	「物理基礎 単元別問題集」 熱・波 P 6 3 ～ 9 1	6 ～ 7	
	1 1 1 2	 2 学期 期 末 考 査	波 P 1 6 0 ～ 1 7 3 音の復習と問題演習 電気 P 1 8 0 ～ 2 0 3 物質と電気抵抗の復習と問題演習 交流と電磁波の復習と問題演習	「物理基礎 単元別問題集」 波・電気 P 9 2 ～ 1 3 2	7 ～ 8	
	冬休み 宿 題	宿 題 テスト				
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	「パックV 物理基礎」	「パックV 物理基礎」	6 ～ 1 0	
					計 3 9 (1 単位)	
評 価	各学期考查に平常点（出席状況、提出物、実験レポート等）を加味したものを評価の対象とする。 各学期 1 0 段階の評価を行い、学年末に 5 段階の評定を行う。なお、平常点の中に「意欲・態度」の評価を含むものとする。					

教科名 理科
科目名 化学（必修選択4単位と自由選択2単位）
対象 6 学年（理系・文理系 必修選択受講者）

I 学習到達目標

- 1 化学的な事物や現象の学習・研究を通じて、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探求する能力と態度を身に付ける。
- 2 基本的な概念や原理・不足の理解を深め、化学的な自然観を養う。
- 3 化学の知識をさらに深め、大学受験に対応できる学力を身に付ける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 通常の講義の形式を中心として行う。
- 2 適宜、演示実験・生徒実験を行う。
- 3 問題演習を適宜行う。

III 教科書・補助教材

教科書	「高等学校 化学」数研出版		
補助教材	「ニューステージ 化学図表」浜島書店，「セミナー化学基礎＋化学」第一学習社 「共通テスト実践問題パックⅤ」駿台文庫出版 「チェック＆演習化学」 数研出版 「化学 重要問題集」 数研出版 「新リピートノート化学」 浜島出版		

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一学期	4	1 学期 中 間 考 査	第1編 物質の状態 第3章 気体 P44～P63 第4章 溶液 P64～P92	「セミナー化学基礎＋化学」 物質の三態と状態変化P1104～P115 気体の法則 P115～P125	1 8 1 2	
	5		第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー P102～P121	溶液の性質 P126～P135 物質の変化と熱・光 P142～P151	1 2	
	6	1 学期 期 末 考 査	第2編 物質の変化 第3章 化学反応の速さとしくみ P142～P159 第4章 化学平衡 P160～P195	「セミナー化学基礎＋化学」 化学反応の速さ P164～P171 化学平衡 P172～P185	1 8	
	7		第3編 無機物質 第1章 非金属元素 P206～P234 第2章 金属元素－典型元素－ P236～P255 第3章 金属元素－遷移元素－ P256～P278	非金属元素の単体と化合物 P192～P207 典型金属元素の単体と化合物 P208～P215 遷移元素の単体と化合物 P216～P225 イオンの反応と分離 P226～P231	2 4	
二学期	9	2 学期 中 間 考 査	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 P286～P295 第2章 脂肪族炭化水素 P296～P309 第3章 アルコールと関連化合物 P310～P333 第4章 芳香族化合物 P334～P368	「セミナー化学基礎＋化学」 有機化合物の特徴と構造 P240～P245 脂肪族炭化水素 P246～P253 酸素を含む脂肪族化合物 P254～P267	2 4 2 4	
	10		第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 P370～P375 第2章 天然高分子化合物 P376～P411	芳香族化合物 P268～P285 糖類 P296～P303 アミノ酸とタンパク質、核酸 P304～P315		
	11	2 学期 期 末 考 査	第5編 高分子化合物 第3章 合成高分子化合物 P412～P434	「「セミナー化学基礎＋化学」 合成樹脂とゴム P316～P323 合成繊維と天然繊維 P324～P329	1 8	
	12		総合演習	「共通テスト実践問題パックⅤ」 「化学 重要問題集」	2 4	
三学期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	「問題演習」 (共通テスト対策) (国公立二次と私大の記述対策)	「共通テスト実践問題パックⅤ」 「化学 重要問題集」	6 0	
					計 2 3 4 (6 単位)	
評価	各定期考査（100点）に平常点（演習ノートの提出・内容），実験レポート（提出・内容）を加味したものを評価の対象とする。なお，平常点には「関心・意欲・態度」，「知識・理解」，「表現」の観点別の評価を含むものとする。各学期10段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。					

教科名 理 科
科目名 化学演習（自由選択）
対 象 6 学年（理系） 選択者

I 学習到達目標

1. 基本的な問題の演習を通して、物理現象の理解と解答を出す方法を身につける。
2. 既出の良問により、より深く物理の現象を理解し、共通テスト、私大入試、国公立二次試験に対応できる能力を養成する。

II 授業の進め方（授業形態等）

- (1) 過去問のプリントや問題集(アクセス・重要問題集)に取り組む。
- (2) 問題解説と実験により、問題の理解を図る。

III 教科書・副教材

副教材	「チェック&演習化学」 数研出版	「セミナー化学基礎+化学」 第一学習社
	「化学 重要問題集」 数研出版	「新リピートノート化学」 浜島出版

IV 学習計画

学	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	1 学期	「化学基礎」	チェック&演習化学 P2～P17	3	
	5	中 間 考 査	「結晶構造」 「物質の三態と状態変化・気体」	化学 重要問題集 P3～P32, 59～67	4	
	6	1 学期 期 末 考 査	「化学反応の速さとしくみ」 「化学平衡」 「電池電気分解」 「有機化合物の特徴と炭化水素」 「アルコールと関連化合物」 「芳香族化合物」	チェック&演習化学 P18～P91 化学 重要問題集 P48～P58, 68～77, 105～132	4 3	
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	「溶液」 「化学反応と熱・光」 「非金属元素とその化合物」 「金属元素とその化合物」	チェック&演習化学 P92～P173 化学 重要問題集 P33～P47, 78～104	4 4	
	1 0					
	1 1	2 学期 期 末 考 査	「天然高分子化合物」 「合成高分子化合物」 総合演習	チェック&演習化学 P174～P231 化学 重要問題集 P133～P148	4 3	
三 学 期	1 2					
	1	3 学期	共通テスト対策演習 国公立二次、私大対策演習	大学入試問題・対策問題集	1 0	
	2					
	3					
					計 7 8 (2 単位)	
評 価	学期毎の評価、学年末の評定については、以下の資料を用いて、「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の4つの観点から総合的に評価を行う。 ①定期考査（各学期、100点満点）、 ②提出物（宿題・テスト直し） ③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

科目名 化学基礎（自由選択）
対象 6 学年（文理系・文系 自由選択者）

I 学習到達目標

- 1 化学的な事物や現象の学習・研究を通じて、自然に対する関心や探究心を高め、化学的に探究する能力と態度を身につける。
- 2 基本的な概念や原理・法則の理解を深め、化学的な自然観を養う。
- 3 化学基礎の知識を深め、共通テスト『化学基礎』に対応できる学力を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 通常の講義の形式を中心として行う。
- 2 適宜、演示実験や生徒実験を行う。
- 3 プリントを用いた問題演習を適宜行う。

III 教科書・補教材

教科書 「高等学校 改訂版 化学基礎」数研出版 ※5年次に使用したもの

補教材 「ニューステージ 化学図表」浜島書店, 「セミナー化学基礎＋化学」第一学習社
「大学入試共通テスト対策 チェック＆演習 化学基礎」数研出版
「共通テスト実践問題パックⅤ」駿台文庫出版

IV 学習計画

学期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一学期	4		「高等学校 化学基礎」	「高等学校 改訂版 化学基礎」	3	
	5		大学入試共通テストに対応すべく、総合診断を行い、苦手分野を確認し、苦手分野克服のための分野別演習を行う。	「セミナー化学基礎＋化学」演習プリント	4	
	6	1 学期 期 末 考 査		・化学基礎の総合問題 授業時配布するプリントの問題演習等も試験範囲に含む。	4	
	7		※期末考査は『化学基礎』全範囲から出題		3	
二学期	9		総合問題演習	「大学入試共通テスト対策 チェック＆演習 化学基礎」	4	
	1 0		教科書、副教材の問題集、演習プリントを活用して、化学基礎の総合問題演習を行う。	「共通テスト実践問題パックⅤ」演習プリント	4	
	1 1	2 学期 期 末 考 査		・化学基礎の総合問題 授業時配布するプリントの問題演習等も試験範囲に含む。	4	
	1 2		※期末考査は『化学基礎』全範囲から出題		3	
三学期	1					
	2		大学入試総合問題演習	大学入試総合問題演習	1 0	
	3					
					計 3 9 (1 単位)	
評価	各期末考査に平常点（授業等で実施した演習成果）を加味したものを評価の対象とする。 なお、平常点には「関心・意欲・態度」、「知識・理解」、「科学的思考」、「表現」の観点別の評価を含むものとする。 各学期 1 0 段階評価を行い、学年末に 5 段階の評定を行う。					

教科名 理 科
科目名 生物演習（必修選択）
対 象 6 学年（理系・文理系） 5 年次生物選択者

I 学習到達目標

1. 5 学年に引き続き、進化や系統・分類について学習し、生物界の変遷、生物の多様性を理解し、進化と分類についての考え方を習得する。
2. これまでに学習した生物全分野の復習、まとめを行う。
3. 問題演習を通して、大学入学共通テスト、国公立大や私立大の一般入試で問われるレベルの知識と考察力、論述力を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

1. 理系、文理系必修選択 2 単位の授業。5 年生物の続きで 6 編から始める。
2. 教科書、資料集を中心に授業を進める。
3. 副教材などを積極的に利用し、問題演習を行う。

III 教科書・副教材

改訂 生物	(東京書籍)
スクエア最新図説生物	(第一学習社)
ニューグローバル生物	(東京書籍)
共通テスト実践問題パック V 生物	(駿台文庫)

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	一学期 中 間 テスト	6 編 生物の進化と系統 1 章 生命の起源と生物の変遷 3 節「生物の変遷」と、4 節「人類の変遷」 の部分は時系列を確認しながら重点的に進める。	ニューグローバル P352～	1 0	
	5		2 章 進化のしくみ 3 節「遺伝子頻度とそのしくみ」については、ハーディ・ワインベルグの法則や分子時計の計算の仕方を時間をかけて学ぶ。	ニューグローバル P362～	6	
	5 6 7	一学期 期 末 テスト	2 章 進化のしくみ 3 節「遺伝子頻度とそのしくみ」については、ハーディ・ワインベルグの法則や分子時計の計算の仕方を時間をかけて学ぶ。 3 章 生物の系統 植物や動物の分類については説明すべき用語が多くなるので、整理しつつ進める。	ニューグローバル P362～ ニューグローバル P380～	8 6	
二 学 期	9 1 0	二学期 中 間 テスト	記述、論述対策の問題演習		1 4	
	1 1 1 2	二学期 期 末 テスト	大学入試過去問を活用した問題演習		1 6	
三 学 期	1 2 3		大学入学共通テスト対策 大学入試過去問を活用した問題演習		1 8	
					計 7 8 (2 単位)	
評 価	①定期考査（各学期、年間 4 回）、②提出物（確認テスト、課題プリント）、 ③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

教科名 理 科
科目名 生物（自由選択）
対 象 6 学年（理系の生物必修選択者）

I 学習到達目標

- 1．これまでに学習した生物全分野の復習、まとめを行う。
- 2．問題演習を通して、特に大学入学共通テストで問われるレベルの読解力と考察力、知識を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1．問題集を積極的に利用し、問題演習を行う。
- 2．問題演習の補足として教科書や資料集を用いた講義形式の授業を行う。

III 教科書・副教材

改訂 生物（東京書籍）
スクエア最新図説生物（第一学習社）
改訂版 大学入学共通テスト対策 チェック&演習 生物（数研出版）

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容		授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容 副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	一学期	第1編 生命現象と物質	チェック&演習	
	5		1 細胞と分子	P4～	2
			2 代謝	P12～	2
			3 遺伝情報の発現	P18～	2
			第2編 生殖と発生	P32～	4
	6	期 末 テ ス ト	4 生殖	P38～	4
	7		5 発生		
			第3編 生物の環境応答		
二 学 期	9	二学期	6 動物の反応と行動	P50～	8
	10		7 植物の環境応答	P57～	8
			第4編 生態と環境		
			8 生物群集と生態系	P68～	8
			第5編 生物の進化と系統	P76～	6
	11	期 末 テ ス ト	9 生物の進化と系統		
	12		総合演習	P86～	8
					8
三 学 期	1 2 3		共通テスト対策 特別演習 国公立大・私大対策 特別演習		18
				計78 (2単位)	
評 価	定期考査（1学期、2学期の各期末のみ）を評価の対象とする。 各学期10段階評価を行い、学期ごとに5段階の評定を行う。				

教科名 理 科
科目名 生物基礎（自由選択）
対 象 6 学年（文系・文理系） 選択者

I 学習到達目標

1. 生物と遺伝子、体内環境の維持、生物の多様性と生態系について学び、環境と生物の関わりについても理解する。
2. 問題演習を通して、大学入学共通テストの生物基礎で問われる読解力と考察力、知識を身につける。

II 授業の進め方（授業形態等）

1. 問題集を積極的に利用し、問題演習を行う。
2. 問題演習の補足として教科書や資料集を用いた講義形式の授業を行う。

III 教科書・副教材

改訂 生物基礎	(東京書籍)
スクエア最新図説 生物	(第一学習社)
チェック&演習 生物基礎	(数研出版)
共通テスト実践問題パック V 生物基礎	(駿台文庫)

IV 学習計画

期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4	一学期 中 間 テスト	生物と遺伝子	チェック&演習 P4～	4	
	5		1 編 生物の特徴 1 章 生物の多様性と共通性 2 章 生命活動とエネルギー 2 編 遺伝子とそのはたらき 1 章 生物と遺伝子 2 章 遺伝情報の分配 3 章 遺伝情報とタンパク質の合成 ＜問題集を活用した復習とまとめ＞	チェック&演習 P16～	4	
	6		生物の体内環境の維持 3 編 生物の体内環境の維持 1 章 体内環境 2 章 体内環境を維持するしくみ 3 章 免疫 4 編 生物の多様性と生態系 1 章 植生の多様性と遷移	チェック&演習 P28～	4	
	7			チェック&演習 P38～	4	
二 学 期	9	二学期 中 間 テスト	2 章 バイオームとその分布 3 章 生態系とその保全 共通テスト対策総合演習：生物基礎	チェック&演習 P48～ チェック&演習 P56～	4 5	
	1 0					
	1 1		＜大学入試過去問を活用した復習とまとめ＞	大学入試過去問	8	
	1 2				3	
三 学 期	1 2 3		共通テスト対策 特別演習		3	
					計 3 9 (1 単位)	
評 価	①定期考査（各学期、年間 4 回）、②提出物（宿題ノート、課題プリント）、 ③学習の様子（授業参加態度、提出物状況、関心・意欲等）					

教科名 理科
科目名 地学基礎（自由選択）
対象 6 学年 （文系・文理系）選択者

I 学習到達目標

- 1 日常生活や社会との関連を図りながら，宇宙の誕生から現在の地球に至るまでを時間的・空間的な広がりの中でとらえる。
- 2 地球や地球を取り巻く環境に対して目的意識をもって観察・実験を行い，地学的に探究する能力と態度を育てる。
- 3 地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，地学的な見方や考え方を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 講義と並行して、実習・実験・観察などの作業を重視し、具体的なイメージをできるだけ捉える様にする。
- 2 副教材を積極的に利用し演習も行う。
- 3 地学教室にて、標本や実物を見せると共に、ICT教材や配布プリントを活用した授業を行う。

III 教科書・補助教材

教科書	「地学基礎」改訂版	啓林館
補助教材	「ニューステージ新地学図表」 浜島書店	「2021 センター試験 実戦問題 パックV -ファイブ- 地学基礎」 駿台文庫
	「マーク式基礎問題集 地学基礎」 河合出版	「大学JUKEN新書（理科） シリーズ」 旺文社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	4		◎ 問題集を活用した復習とまとめを主体とするため、以下に教科書の参考項目を記す。		3	
	5	一学期 中 間 テスト	1 編 私たちの宇宙の進化 1 章 宇宙の構造と進化 P4-13 2 章 太陽と惑星 P14-29	基礎問題集 P194-216 基礎問題集 P168-193	4	
	6	一学期 期 末 テスト	2 編 私たちの地球の変遷と生物の進化 1 章 生命の変遷 P44-59 2 章 地層や岩石の観察 P60-67	基礎問題集 P82-89 基礎問題集 P78-81, 90-122 基礎問題集 P62-67	4	
	7		3 編 私たちの地球 1 章 大地とその動き P78-89		3	
二 学 期	9	二学期 中 間 テスト	3 編 私たちの地球 2 章 地震 P92-101 3 章 火山 P116-131 4 章 大気と海洋 P116-121	基礎問題集 P32-41 基礎問題集 P50-61	4	
	1 0			基礎問題集 P128-163	4	
	1 1	二学期 期 末 テスト	4 編 私たちの地球のこれから 1 章 地球環境の考え方 P148-151 2 章 自然環境の変動 P152-159 3 章 日本の自然環境 P160-167 4 章 これからの地球環境 P168-173	基礎問題集 P 128-163	4	
	1 2				3	
三 学 期	1 2 3		特別演習：地学基礎の全分野についての演習と まとめ	大学入試過去問	1 0	
					計 3 9 (1 単位)	
評 価	・各学期考查に平常点（実験・実習レポート、プリント提出など）を加味し評価をする。 ・平常点の中に「関心・意欲・態度」「思考」「知識・理解」「表現」の観点別の評価を含むものとする。 ・各学期1 0段階評価を行い、学年末に5段階の評定を行う。					

芸術科

音楽科の学習目標

- （1）音楽Ⅰ 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質能力を高める。
- （2）音楽Ⅱ 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質能力を高める。

美術科の学習目標

- （1）美術教育を通して様々な表現を体験し、豊かな心情を養う。
- （2）自己を表現することの喜びを味わわせ、発想豊かな想像力を育てる。
- （3）日本および海外の美術を鑑賞することにより、ゆとりある美的情操を養う。
- （4）美術が社会に与える影響や役割を理解し、自己表現の手段としての美術を理解できるようにする。
- （5）自主的・自発的な発想を奨励し、自ら考えたことが作品になる喜びを味わわせる。

書道科の学習目標

- （1）基本的な書写能力を高める活動を通し、書に親しむ心を養い、感性を豊かにする。
- （2）書を通して自己を表現することの喜びを味わわせ創造力を伸ばす。
- （3）書の文化や伝統を理解し、生涯にわたり書に親しむ心を育てる。

Ⅱ 芸術科の3年間の科目構成と学習内容

	「科目」と学習内容				発展的な内容、特色ある活動、関連する行事等
1年	音楽Ⅰ(必修選択) 2単位 ・歌唱や三味線実技を通して創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。 ・創作活動や表現活動に必要な音楽理論や楽典などの音楽的知識を深める。	美術Ⅰ(必修選択) 2単位 ・美術の制作活動全てを体験できるようにバランスよく、絵画・デザイン・映像メディア表現について学習する。 ・美術の幅広い創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる ・美的体験を豊かにし感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	書道Ⅰ(必修選択) 2単位 ・漢字・仮名・漢字仮名交じり書の基本を学ぶ。 ・古典の臨書を通して、書の文化や伝統を理解し、書の美に親しむ力を育てる。 ・臨書や鑑賞を通して感じ取った美的感性を自己の創作表現に活かす。		・各式典 ・文化祭 ・合唱コンクール
2年	(5年次は芸術科科目の設定なし)				
3年	音楽Ⅰ(自由選択) 2単位 ・音楽表現の技能や鑑賞能力をさらに高め、表現に生かす。 ・音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てる。	音楽Ⅱ(自由選択) 2単位 ・音楽表現の技能や鑑賞能力をさらに高め、表現に生かす。 ・音楽大学に進学を希望する生徒に向け、志望大学・志望学科・受験方法に対応した実技・演習を行う。	美術Ⅰ(自由選択) 2単位 ・美術の幅広い創造活動を通して美術を愛好する心情を育てる。 ・美的体験を豊かにし感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・自ら課題を設定し自由に制作を行い自己の表現力を伸ばす。	美術Ⅱ(自由選択) 2単位 ・1、2年次の制作活動をふまえ、さらに個性豊かな美術の表現能力を高める。 ・美術文化についての理解を深めさらに美術を愛好する心情を育てる。 ・自ら課題を設定し自由に制作を行い自己の表現力を伸ばす。	・個々の経験や志望校に応じ、適切な指導を行う。

＊ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 芸術科
科目名 音楽ⅠまたはⅡ（自由選択）
対象 6 学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 音楽理論や楽典などの音楽的知識を深める。
- 2 音楽的な技術を習得し、音楽を愛好する心情を育てる。
- 3 音楽大学・音楽学部・幼児教育関係に進学を希望する生徒に対して、志望大学・志望学科受験方法に対応した授業を行い、進路実現をはかる。

II 授業の進め方（授業形態等）

講義、実技

III 教科書・補助教材

教科書 「MOUSA 2」教育芸術社
補助教材 「楽典－理論と実習」音楽之友社

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期						
	4		オリエンテーション・個人面談 ・音楽理論Ⅰ-①② (基礎課題) 模擬試験	オリエンテーション・個人面談 音・純正律と平均律P. 10～16 譜表と音名P. 17～30 音符と休符P. 31～37 リズムと拍子P. 38～74 音程P. 75～92	2 2 6	
	5					
	6					
	7					
	夏休み 宿 題					
二 学 期	9		・音楽理論Ⅰ-③④ (過去問題演習) 模擬試験	音階P. 93～138 和音P. 139～148 速さ・強さに関する表示法 P. 149～158 曲想・奏法に関する表示法 P. 159～175	3 0	
	1 0					
	1 1					
	1 2					
	冬休み 宿 題					
三 学 期	1		・音楽理論Ⅰ-⑤ (問題演習) 模擬試験	問題集（演習）P. 178～239	2 0	
	2					
	3					
					計 7 8 (2 単位)	
評 価	各学期実技テストや単元テストに平常点（宿題やワークシートの提出・授業中の取り組み）を加味したものを評価の対象とし、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習 に取り組む態度」の観点別で評価する。各学期1 0段階評価、学年末5段階評価。					

教科名 芸術科
科目名 美術ⅠまたはⅡ（自由選択）
対象 6 学年 選択者

I 学習到達目標

- 1 美術教育における様々な制作体験を通して、豊かな情操を養う。
- 2 自ら課題を設定し自由に制作を行い、自己の表現力を伸ばす。
- 3 進学希望先の受験に沿った課題制作を行い、表現能力の向上をめざす

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 4月から7月は、自分の作品が他の人の目に触れることを意識して文化祭に向けて制作を行う。
- 2 9月から1月は、高校最後の卒業作品として完成度の高い自己表現を行う。
- 3 年間通し、美術系大学もしくは実技を課す大学受験の対策を行う。

III 教科書・補助教材

教科書 高校生の美術1（日本文教出版）
高校美術2（日本文教出版）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み 宿 題	宿 題 テスト				
	4		・オリエンテーション ・自主制作課題Ⅰ-① （基礎課題） （過去問題制作） ・自主制作課題Ⅱ-① （基礎・応用課題） （過去問題制作）		2 2 6	
	5					
	6					
	7					
	夏休み 宿 題					
二 学 期	9		・自主制作課題Ⅰ-① （基礎課題） （過去問題制作） ・自主制作課題Ⅰ-② （過去問題制作） ・自主制作課題Ⅱ-① （基礎・応用課題） （過去問題制作） ・自主制作課題Ⅱ-② （過去問題制作）		4 2 6	
	1 0					
	1 1					
	1 2					
	冬休み 宿 題					
三 学 期	1		・自主制作課題Ⅰ-② （過去問題制作） ・自主制作課題Ⅱ-② （過去問題制作） ・一年間を振り返り、後輩達へ作品等を残す		2 0	
	2					
	3					
					計 7 8 （2 単位）	
評 価	・各自設定した課題の制作状況及び作品の完成度					

英語科

I 英語科の学習目標

- (1) 外国語の学習を通じて、外国語とその外国語が使われている文化背景について学習する。
- (2) 外国語の学習を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育成する。
- (3) 外国語の学習を通じて、情報や意向を理解し、自己表現する実践的なコミュニケーション力を育成する。

II 英語科の3年間の科目構成と学習内容

II 英語科の3年間の科目構成と学習内容

4年	コミュニケーション英語Ⅰ（必修） 4単位		英語表現Ⅰ（必修） 2単位	
	1 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 2 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成する。 3 聞いたり読んだりしたことなどについて、話し合ったり、簡潔にまとめたりできるようにする。		1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 3 教わった英文を自分の言葉で他者に説明できる能力を育成する。	
5年	コミュニケーション英語Ⅱ（必修） 4単位		英語表現Ⅱ（必修） 2単位	HAPIE ^(ハピィイ) 1単位（学校設定科目）
	1 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるとともに、コミュニケーション能力を伸ばす指導を発展的に行う。 2 速読したり精読したり、目的に応じた読み方をする。 3 話し合いをして結論をまとめたり、まとまりのある文章を書くなど、統合的な言語活動を行う。		1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 3 既習事項を深化させ、テーマに基づき論理的に自分の考えを表現する力をつける。	1 テーマに基づき、様々な形態で自分の意見を発表する力をつける。 2 聴衆からの質問の要点を理解し、相手にわかりやすく英語で応答する力をつける。
6年	コミュニケーション英語Ⅲ（必修） 4単位	英語表現Ⅱ（必修） 2単位	HAPIE ^(ハピィイ) 1単位（学校設定科目）	
	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をさらに伸ばす。 2 難易度の高いまとまりのある英文を読み、正確に情報を把握する力をつける。 3 母語話者の英語を聞いて要点を理解したり、自分の意見や主張を明確に表現する力を養成する。	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度をさらに伸ばす。 2 文章構成を意識し、論理の展開や表現方法に工夫を加えながらまとまりのある英語を書く能力を養う。 3 総合的な英語力を高めるため、問題演習を行う。	1 英語論文（Academic Essay）の書き方について学び、自らの主張や調査結果を論理的かつ的確に表現する力をつける。 2 事前に用意したプレゼンテーションを流ちょうにおこなう力をつける。 3 聴衆とのやりとりを英語で行い、自分の主張を論理的かつ明確に展開する力をつける。	

※ 6年生の自由選択科目は受講希望者数によって変更があり得ます。

教科名 英語科
科目名 コミュニケーション英語Ⅲ
対 象 6学年全員

I 学習到達目標

1. 様々なテーマ・分野の英文を読んだり聞いたりすることにより、深い読解力と理解力を身につける。
2. 英語独特の語彙の使い方や文構造を理解し、自ら適切に運用する技術を身につける。
3. 諸外国の歴史や文化に触れて国際理解を深めると共に多様な人々の生き方から自身のあり方について考える力を養う。

II 授業の進め方（授業形態等）

1. 週4時間のクラス単位で授業を行う。
2. 1年間の授業時数は156時間である。
3. 教科書に加えて補助教材を適宜使用し、幅広いタイプ・ジャンルの英文を教材とする。
4. 実践力をつけるため問題集による演習を行う。

III 教科書・補助教材

Revised LANDMARK English Communication Ⅲ（啓林館）
Revised LANDMARK English Communication Ⅲ 付属CD（啓林館）
入試長文読解演習 Aim High Vol.3（美誠社）大学入試共通テストリスニング分野別10min.（エミル出版）※繰り越し教材
共通テストパックファイブリーディング2022（駿台文庫）
大学入試共通テスト英語（リーディング）Reach80（美誠社）
共通テストパックファイブ英語リスニング（駿台文庫）
SKYWARD OCEAN Course 2nd Edition（桐原書店）※前年度からの繰り越し教材
頻出英文法・語法問題1000（桐原書店）※前年度からの繰り越し教材

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み	校内模試	既習事項の復習	・ SKYWARD OCEAN Unit 4~12（宿題） ・ 頻出英文法語法問題1000 文法総合演習（宿題）	1	
	4 5	1学期 中 間 考 査	Revised LANDMARK English CommunicationⅢ ①L1: Caffeine: The World's Favorite Drug ②L2: Blood is Blood ③L3: Australia and its Creatures	④入試長文読解演習Aim High Vol.3 Unit1~3 大学入試共通テストリスニング分野別10min.	①：6 ②：6 ③：6 ④：7	
	6 7	1学期 期 末 考 査	Revised LANDMARK English CommunicationⅢ ①L4: The \$ 100,000 Salt and Pepper Shaker ②L5: Bilingual Effects in the Brain ③L6: Communication without Words	④入試長文読解演習Aim High Vol.3 Unit4~6 大学入試共通テストリスニング分野別10min.	①：7 ②：8 ③：7 ④：8	
	夏休み			・ 入試長文読解演習Aim High Vol.3 Unit7~12		
二 学 期	9 10	2学期 中 間 考 査	Revised LANDMARK English CommunicationⅢ ①L7: Political Correctness ②L8: Animal Math ③L9: The Story of My Life	④入試長文読解演習Aim High Vol.3 Unit13~15 大学入試共通テストリスニング分野別10min. 大学入試共通テスト英語Reach80	①：6 ②：7 ③：7 ④：7	
	10 11 12	2学期 期 末 考 査	Revised LANDMARK English CommunicationⅢ ①L10: Extinction of Languages ②L11: Learning a First Culture ③L12: Light Pollution	④入試長文読解演習Aim High Vol.3 Unit16~18 大学入試共通テストリスニング分野別10min. 大学入試共通テスト英語Reach80	①：8 ②：8 ③：8 ④：9	
	冬休み					
三 学 期	1 2 3	3学期	①共通テストパックファイブリーディング ①共通テストパックファイブ英語リスニング	①センター模擬演習	①：40	
	各学期の定期考查の得点に、小テスト、課題の提出、授業への取り組み等を加えて評価する。				計156 （4単	
評 価	各学期の定期考查の得点に、小テスト、課題の提出、授業への取り組み等を加えて評価する。 各学期に10段階評価を行い、学年末に5段階評定を行う。					

教科名 英語科
科目名 英語表現Ⅱ
対 象 6 学年全員

I 学習到達目標

1. 前年度までに培った基礎力を基に実践的な英語の運用力を向上する。
2. さまざまな場面や目的に応じた英語表現を習得し、まとまった英文を書く力をつける。
3. 文法を体系的に理解し、自然な英語で正しく表現する力をつける。

II 授業の進め方（授業形態等）

1. 週 2 時間、クラス単位で授業を行う。
2. 1 年間の授業時数は 7 8 時間である。
3. 補助教材を使用して授業を行う。

III 教科書・補助教材

クローバー英文法・語法ランダム演習【入試発展】（数研出版）
Simple Skills for English Writing シンプル英作文（文英堂）

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	春休み					
	4	1 学期 中 間 考 査	Part 1 Lesson 1：主語の決定／見えない主語の発見／主語のit Lesson 2：主語になる名詞句／形式主語／無生物主語 Lesson 3：自動詞と他動詞／間違えやすい自動詞と他動詞 ／群動詞 Lesson 4：SVO／SVOO の総復習	・シンプル英作文第 1 章～3 章 ・クローバーランダム演習 Lesson 1-3	6 7	
	5					
	6					
	7	1 学期 期 末 考 査	Lesson 7：直接話法と間接話法／間接話法で伝達 Lesson 8：「～する」／「～している」 Lesson 9：「～した」／「～していた」 Lesson 10：能動態と受動態／日本語との違い Lesson 11：仮定法 Lesson 12：義務・必要を表す助動詞／推量を表す助動詞 の総復習	・シンプル英作文第 4 章～6 章 ・クローバーランダム演習 Lesson4-7	7 8	
	夏休み		1 学期の復習			
二 学 期	9	2 学期 中 間 考 査	Lesson 13：数量を表す語句／名詞を前から修飾する語句 Lesson 14：名詞を後ろから修飾する①／② Lesson 15：関係代名詞／関係副詞 Lesson 16：副詞・副詞句／不定詞や分詞を使った副詞句 Lesson 17：副詞節①／② Lesson 18：原級／比較級 の総復習	・シンプル英作文第 7 章～1 0 章 ・クローバーランダム演習 Lesson8-11	7 7	
	1 0					
	1 1					
	1 2	2 学期 期 末 考 査	Lesson 19：最上級／最上級を意味する表現 Lesson 20：no＋名詞，no-で始まる代名詞／部分否定／準否定 Part 2 Lesson 1：文と文をつなぐ Lesson 2：パラグラフの構成／列挙・順序 Lesson 3：例示・追加 の総復習	・シンプル英作文第11章～13章 ・クローバーランダム演習 Lesson12-15 ・入試演習	5 6 5	
	冬休み		2 学期の復習			
三 学 期	1 2 3	3 学期 学 年 末 考 査	Lesson 4：比較・対照 Lesson 5：原因・理由・結果 Lesson 6：リーディングの要約 Lesson 7：リスニングの要約 の総復習	大学入試対策問題演習	20	
					計78 (2 単位)	
評 価			各学期の定期考查の得点に、小テスト、課題の提出、授業への取り組み等を加えて評価する。 各学期に 1 0 段階評価を行い、学年末に 5 段階評定を行う。			

教科名 外国語（総合的な学習の時間との連携）
科目名 HAPIE II
対象 高校第3学年全員（6年生）

I 学習到達目標

- 1 英語での発信力を高める
- 2 英語探究論文を5分以内でポスターやICTを効果的に使い、適切な英語でプレゼンテーションをすることができる。
- 3 昨年度作成した探究論文を英語に翻訳することにより、英語論文作成ルールや書式を身につけることができる。
- 4 アカデミックなレベルでのスピーキング・リスニング・ライティングの基礎力を身につけることができる。

II 授業の進め方（授業形態等）

- 1 前半：ALT一人に対し生徒10人となるよう1クラスを4分割した少人数指導で探究論文翻訳する。（習熟度ではない）
- 2 後半：前半と同じ形態で、英語探究論文を5分のプレゼンテーションにまとめ、発表する。
- 3 未提出者や未発表者への補習実施

III 教科書・補助教材

自作教材
探究論文翻訳用：Hakuo Academic Essay Handbook（大学生のためアカデミック英文ライティング：大修館書店をもとに作成）
プレゼンテーション用：Microsoft PowerPointと生徒用Tablet

IV 学習計画

学 期	月	学 習 内 容			授業時数	備考
		考 査	「教科書」の学習内容	副教材・その他の学習内容		
一 学 期	ガイ ダンス			英語探究論文書式について		
	4	1 学期 中 間 考 査 実 施 せ ず		Introduction / Method / Results / Thoughts / Conclusion / References翻訳作業	3	
	5			4		
	6 7	1 学期 期 末 考 査		実用英語技能検定準2級～準1級 レベルのリスニングテスト実施 Introduction / Methods / Results / Thoughts / Conclusion / References翻訳作業	4	
	夏休み 宿 題	翻 訳 提 出 へ		Introduction / Methods / Results / Thoughts / Conclusion / References翻訳作業		
二 学 期	9 1 0	2 学期 中 間 考 査 実 施 せ ず		英語探究論文提出⇒点検作業 英語探究論文プレゼンテーション を5分にまとめるためのガイダンス ポスター（パワーポイント）作成 発表練習（評価基準周知）	3	
	1 0 1 1	2 学期 期 末 考 査		プレゼンテーション発表⇒評価 実用英語技能検定準2級～準1級 レベルのリスニングテスト実施	2 4	
		冬休み	宿 題			
三 学 期	1 2			（プレゼンテーション未発表者 補習授業）	1 (21)	
	実質、1学期と2学期で授業終了（3学期自宅学習期間となるため）				計 3 5 (1 単位)	
評 価	①1学期・2学期各期末考查におけるリスニングテスト2回（50点） ②英語探究論文の提出と評価ルーブリックによる点数化 ③英語プレゼンテーションに対する評価を点数化					